

平成 25 年度 ウチナージュニアスタディー事業 報告書



目次

1. 概要	1
(1) ウチナージュニアスタディ事業概要	2
(2) スケジュール	3
(3) 総括	4
(4) プログラム運営実施体制図	6
(5) 制作物など	7
(6) 参加者名簿	8
(7) 講師紹介	10
2. 実施内容	11
(1) 事前学習	12
(2) 学習プログラム	16
(3) 報告会	44
3. 参加者感想文	46
(1) 海外参加者	47
(2) 県内参加者	55
4. 参考資料	63
(1) アンケート結果	64
(2) 過去の受け入れ実績	75

1.概要

(1) ウチナージュニアスタディ事業概要

① 【趣旨】

沖縄県の海外移住者子弟を本県に招致し、県内の同世代の青少年と生活をともにしながら沖縄の歴史や文化等を学ぶことにより、海外移住者子弟の母県・沖縄への理解と絆を深めるとともに、世界のウチナーネットワークを担う次世代を育成する。

② 【事業内容】

本事業は、事前学習、学習プログラム及び報告会で構成する。

事前学習（県内参加者及び県内青年リーダーのみ）

- ・ 平成 25 年 7 月 6 日（土）9：30～13：00
- ・ 平成 25 年 7 月 20 日（土）9：30～13：00

学習プログラム

- ・ 平成 25 年 8 月 4 日（日）～8 月 10 日（土）

報告会（県内参加者及び県内青年リーダーのみ）

- ・ 平成 25 年 11 月 9 日（土）13:30～15:00

② 【参加者】（参加者 32 名＋スタッフ 36 名＝計 68 名）

- ・ 海外参加者 13～19 歳までの海外県系人 15 名 ※国別内訳は参加者名簿参照
- ・ 国内参加者 沖縄県内の中学・高校生 15 名
- ・ 青年リーダー 海外 1 名 県内 1 名
- ・ 随員スタッフ（沖縄県 3 名・スタッフ 10 名・ボランティア等 23 名） 計 36 名

④ 【学習プログラム概要】

(ア) 自然学習

沖縄の自然や動植物等に触れるアクティビティーにより、自然の大切さを学ぶ。

(イ) 歴史学習

沖縄の歴史的な史跡等を巡り、沖縄の歴史を学ぶ。

(ウ) 芸能、工芸体験学習

沖縄の歴史から生まれた工芸・芸能等の文化を知り、体験する。

(エ) 平和学習

沖縄戦の概要を学び、沖縄が訴える平和を考える。

(オ) 社会学習

沖縄での生活を経験し、沖縄の「今」を知る。

(カ) 移民学習

沖縄における移民の歴史、海外で活躍するウチナーンチュ及びウチナーネットワークの広がりを学び、次世代のウチナーネットワークの担い手としての自覚を持つ。

☆ ウチナージュニアスタディー2013全行程

総合学習 移民学習 伝統工芸・芸能体験学習
 平和学習 自然学習・スポーツ交流 社会学習・歴史学習
 バスでの移動

(2) スケジュール

月日	8/4(日) 1日目	8/5(月) 2日目	8/6(火) 3日目	8/7(水) 4日目	8/8(木) 5日目	8/9(金) 6日目	8/10(土) 7日目
7:00		起床	起床	6:30 起床 7:00 朝食	7:00 起床	7:00 起床	7:00 起床
8:00		7:30 朝食	7:30 朝食	8:00 《自然学習》 カヌー&マングローブ体験	7:30 朝食	7:30 朝食	7:30 朝食
9:00		8:30 OIC出発	8:30 《歴史学習》 講義 琉球の歴史について	8:00 《自然学習》 カヌー&マングローブ体験	8:30 ネイチャーみらい館出発		8:30 OIC出発
9:30	9:30 参加者受付 JICA沖縄国際センター (※以下OIC)	9:00 《社会学習Ⅰ》 那覇まちまーい		9:00 《自然学習》 カヌー&マングローブ体験	9:30 《社会学習Ⅱ》 沖縄の暮らしと民族講座	9:30 《総合学習Ⅱ》 振り返りワーク ショップ	9:00 《自然学習Ⅱ》 西原きらきらビーチ
10:00	10:30 開講式	10:00 国際通りから移動 県庁到着	10:30 OIC出発				
11:00	オリエンテーションⅠ 趣旨 諸注意 日程 資料配布 昼食(OIC)	11:00 県庁表敬訪問 県庁出発	11:00 《歴史学習》 世界遺産ツアー:首里城	休憩			
12:00	12:00 昼食(OIC)	12:00 市内レストランにて昼食	12:00 首里城出発	12:00 昼食	12:00 昼食 お豆腐づくり	12:00 昼食(OIC)	12:00 昼食(外食)
13:00	13:00 オリエンテーションⅡ 参加者自国および自己紹介	13:00 昼食後OICへ OIC到着	13:15 レストラン出発	13:00 《総合学習Ⅰ》 ワーク ショップⅠ	13:00 沖縄こどもの国出発	13:00 《総合学習Ⅲ》 まとめワークショップ	13:00 昼食後OICへ OIC到着
14:00		14:00 《移民学習》 ①「世界のうちなーんちゅ発 多文化共生」	14:30 キムタカホール到着 《伝統芸能学習Ⅰ》 肝高の阿麻和利 パックス・マジシア		14:00 ひめゆり平和祈念館到着		14:00 研修成果発表準備
15:00	15:00 流プログラム	②ワーク ショップ (移民かるた等)	15:00		《平和学習》 ①ひめゆり見学 ②平和構築ワークショップ	研修成果発表会準備	14:30 研修成果発表
16:00							15:00 終了式
17:00	17:00 ウェルカムパーティ(OIC)		17:00 キムタカホール出発	17:00 ボランティア交流企画		17:00 自習時間	16:30 フェアウェルパーティ(OIC)
18:00		18:00 夕食(OIC)	18:30 ネイチャーみらい館到着 チェック イン 夕食(ネイチャーみらい館)	18:00 BBQ	17:30 ひめゆり出発	18:00 夕食(OIC)	18:30 解散
19:00	19:00 解散	19:00 課外授業Ⅰ	19:30 《伝統芸能学習Ⅱ》 パフォーマンスワーク ショップⅠ	19:00 キャンプファイアー	18:00 OIC到着 夕食(OIC)	19:00 《伝統芸能学習Ⅱ》 パフォーマンスワーク ショップⅡ	ホームステイ先へ
20:00	~日程終了~	~日程終了~	20:30 ~日程終了~		20:00 《伝統芸能学習Ⅲ》 パフォーマンス練習	~日程終了~	~日程終了~
21:00		21:00	21:00 ~日程終了~	21:00 ~日程終了~	21:00 ~日程終了~	21:00	
22:00		22:00 就寝	22:00 就寝	22:00 就寝	22:00 就寝	22:00 就寝	
宿泊地	JICA沖縄国際センター	JICA沖縄国際センター	金武町ネイチャーみらい館	金武町ネイチャーみらい館	JICA沖縄国際センター	JICA沖縄国際センター	ホームステイ

(3) 総括

前身のジュニアスタディー事業から始まった本事業は、今回の実施で13回目を迎えた。世界中のウチナーンチュの子弟らが母県沖縄を訪れ、青少年たちと交流する本事業は、沖縄県だけでなく、海外県人会にとっても特別なものである。海外参加者の中には、何回も応募してやっと選抜され、夢のようだと語るものもいた。今年は世界8カ国から様々なバックグラウンドを持つ中高生が「ウチナーンチュ」という共通点を通して集まり、県内の参加者と一週間を共にしながら自分たちのルーツを探った。参加者たちは複数の分野で多角的に沖縄を体験しながら、「自分は何者であるか」という問いと真剣に向き合った。県内参加者にとっても、海外のウチナーンチュと触れ合うことで沖縄に対する理解が深まり、自分を見つめなおす機会となったようであった。今年度事業の特徴は下記の3点である。

* 心を揺さぶった移民ワークショップ

海外参加者にとっては敏感な部分でもあるアイデンティティの問題。「自分は何者なのか」という問いに対して、最初は海外組と県内組に分かれて考え、最後に全体で思いを共有した。自分の生い立ちや互いの差異について考える機会を前半に組むことで、自分のことや自分のルーツを受け入れるきっかけとなることを目指した。

* 新たな行動に繋がるプログラム

今年度の各種アクティビティは、学んだことを自分の事に落としこんで考えること、気づきを得るだけでなく、そこから次の行動（アクション）に繋げることを目指した。まずは沖縄の自然、文化、伝統、歴史、戦争と平和という6つの分野における専門家を講師として招聘し、楽しく体験しながら参加生たちの好奇心や意欲を掻き立てた。そして、見学や体験の後にワークショップを組み込み意見交換させ、より主体的に考えることを求めた。

* 事業を超えた横断的な交流を実現

本事業は毎年行われている継続事業で、過去の参加者がボランティアとして後輩をサポートする仕組みがあるため、OB・OGの繋がりが強い。そこで今年度は、その他の国際交流プログラム参加者と出会うことで横の繋がりを図った。金武ネイチャーみらい館で行われたキャンプファイヤーでは、ジュニアスタディーのOB・OGに加え、世界若者ウチナーンチュ連合会、県費留学生、金武町海外移住者子弟等研修生受入事業の研修生が集まり、大交流会を開催した。また、うるま市勝連のキムタカホールでは、アジアユース人材育成プログラムの参加生と合流し、世界22カ国、総勢100名が合同でワークショップを実施した。



SNS・Facebook を活用し、学習プログラム前後も交流を促した。
(登録人数 58 名)

以下は今年度事業の参加生の感想文の抜粋である。

- ✦ 違う国に住んでいても違う言語を話しても、それでも私たちは世界中に移民していったウチナーンチュの子孫なのだなどと改めて気付かされました。（ブラジル参加者）
- ✦ 海外参加者が沖縄について学ぼうとしているのを見て、自分もみんなの国に興味を持ちたいという気持ちと、今までの自分の視野の小ささを恥じる気持ちが出てきました。（県内参加者）
- ✦ 人はみんな違うのが当たり前だということがわかって、自分に自信を持てるようになり、ちゃんと個性を大事にしていこうという気持ちになりました。（県内参加者）
- ✦ 沖縄では偏見なしに（話を）聞いてくれたので、私の意見・アイデアを自由に伝えることができました。この事業の大切な点は、若者たちが悩み・意見・反省点を言う時間があることです。（アルゼンチン参加者）

自分自身や自分のルーツを受け入れることと、異文化を受け入れること。交流を行う上で大切なこの2点を実践した参加者らには、国境や言語を超えた友情が芽生えていた。

また、

「来年はボランティアとして事業に参加したい」

「ウチナーンチュ大会／世界若者ウチナーンチュ連合会に参加したい」

「国際的な仕事に就いて、沖縄の歴史や文化を伝えていく人になりたい」と、感想文に頼もしく書き込まれていた。

参加者の感想文・アンケート結果からも本事業の趣旨である海外移住子弟の母県・沖縄への理解と絆を深めるとともに、世界のウチナーネットワークを担う次世代を育成する目的は達成できたと考える。来年度は今回の成果・課題を踏まえた上、参加生同士と一緒に何かを作り上げるような内容にするなど、より達成感を得、絆がより深まるプログラム構成を目指したい。



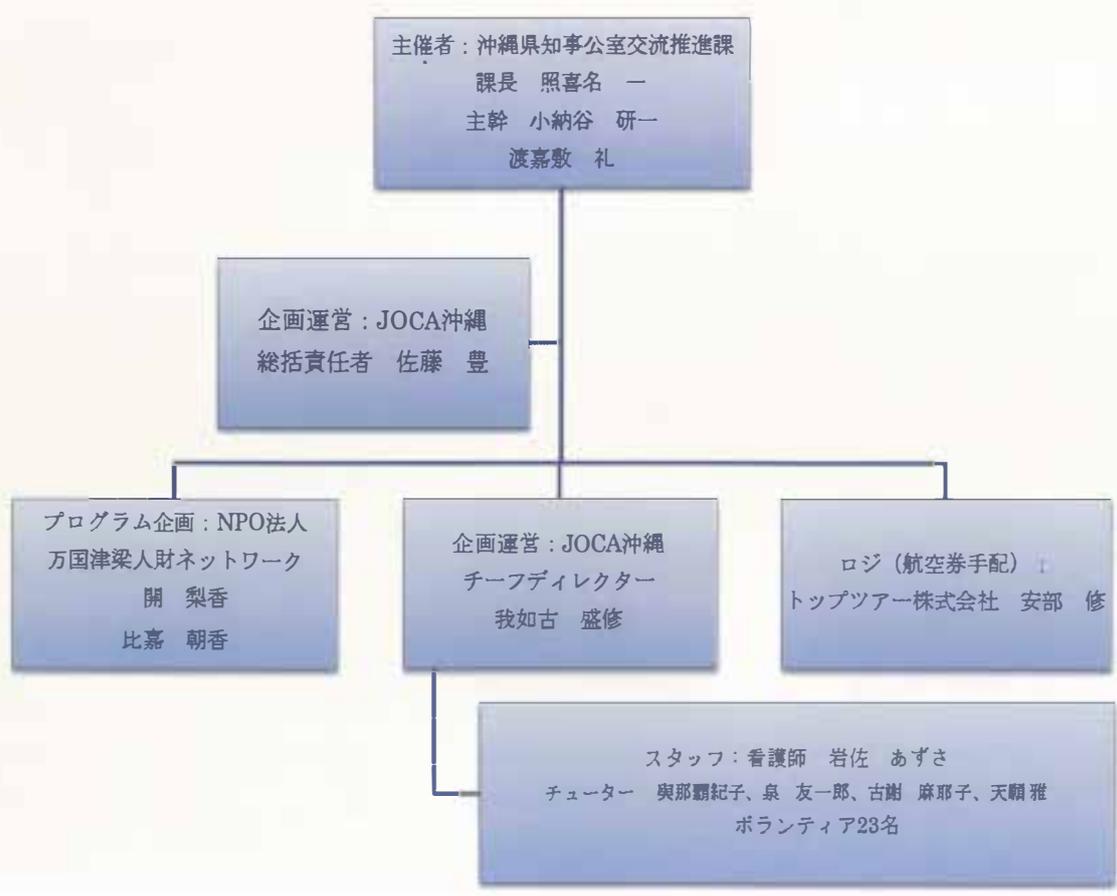
(4) プログラム運営実施体制図

沖縄県からの受託事業者として、(公社)青年海外協力協会、(NPO 法人)万国津梁人財ネットワーク、トップツアー(株)が共同企業体を形成し、沖縄県と連携しながら本プログラムの運営を行った。

公益社団法人青年海外協力協会(JOCA)は、35,000名を超える青年海外協力隊の帰国ボランティアを中心に、個人会員及び全都道府県OB会等の団体がその構成メンバーとなっており、全国の都道府県にネットワーク組織を持ち、日本全国すみずみまで行渡る事業の展開が可能な団体である。沖縄においては、JICA 沖縄国際センターでの開発教育・国際理解教育支援事業や青年研修事業の業務実績を有し、グローバル人材の育成や県内外の人々に沖縄の良さを伝える事業等の促進に寄与する事業展開を図っている。

NPO 法人万国津梁人財ネットワークは、国際的に活躍できる人材育成と、世界各国との文化交流・ビジネス交流拠点としての沖縄の発展に寄与することを目的として設立されたNPO 法人であり、アジア青年の家、アジアユース人材育成プログラム等を手掛け、沖縄とアジアの若者の人材育成活動を展開している。

トップツアー株式会社は、「お客様満足度100%+α」を合言葉に、満足度向上を目指し、県内における人材育成や環境整備、新しいかたちのエンターテイメント企画開発といった様々な要素を含んだ観光産業事業に取り組んでいる。特に観光立県沖縄においては、沖縄の未来を見据え、行政・各関係機関と相互連携をはかる真の観光振興事業の展開に向けた事業展開に力を注ぎ、観光産業クラスターとして、また観光産業界のオピニオンリーダーとしてグローバルな視点に立った事業を展開している。



(5) 制作物など

ウチナージュニアスタディ事業の趣旨を踏まえ、参加者の一体感の醸成や沖縄の文化を伝えることをコンセプトに下記のような携行品などを作成した。

① 名札 (青：県内参加者 オレンジ：海外参加者)



② 給水用タンブラー (沖縄限定3種類：海・干潟・山原)



③ かりゆしポロシャツ (赤：参加者 紺：スタッフ)



④横断幕



(6) 参加者名簿

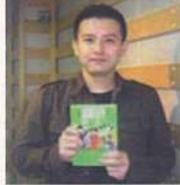
海外参加者 16 名 ※太字は青年リーダー

	応募者名	年齢	Name	国名	所属(県人会名)	特技
1	太田 メリッサ パウラ	14	Ota Melissa Paula	カナダ	レスブリッジ沖縄文化協会	三線・空手・エイサー
2	キビドー カーヨ 司	15	Kibodeaux Kyle Tsukasa	アメリカ	沖縄県人会アトランタ	バイオリン ボーリング
3	タイヤス マイケル 堀田	16	Tyus Michael Hotta	アメリカ	北米沖縄県人会	エイサー・合 気道・ボー リング
4	エステファニ さゆり 高良 仲程	17	Estefani Sayuri Takara Nakahodo	メキシコ	メキシコ沖縄県人会	メキシカン ダンス
5	津嘉山 朱里男	16	Tsukazan Jurio	ボリビア	ボリビア沖縄県人会	ボリビア伝 統舞踏・エイ サー
6	真榮城 茜	16	Maeshiro Akane	ボリビア	ボリビア沖縄県人会	ボリビア伝 統舞踏・エイ サー・トラン
7	波田野 金城 ヤラ 梨枝	16	Yara Rie Hatano Kaneshiri	ブラジル	ブラジル沖縄県人会	ダンス・手 芸・工作
8	花城 アナ パウラ 光花留	15	Ana Paula Hikaru Hanashiri	ブラジル	ブラジル沖縄県人会	ダンス・ピア ノ
9	当間 グンジン ホザネ チエミ	16	Rosane Thiemi Toma Gundim	ブラジル	カンボグランデ沖縄県人会	ダンス・折り 紙
10	サキハラ タイラ リカルド	17	Sakihara Taira Ricardo	ペルー	ペルー沖縄県人会	エイサー・三 線・楽器演 奏
11	トカシキ クニガミ アンドレス	17	Tokashiki Kunigami Andres	ペルー	ペルー沖縄県人会	エイサー・三 線・楽器演 奏
12	我謝 マリア カロリーナ	19	Gaja Maria Carouna	アルゼンチン	在亜沖縄県人連合会	タンゴ
13	比嘉 パネサ ダフネ	18	Higa Vanesa Dafne	アルゼンチン	在亜沖縄県人連合会	アルゼンチ ンタンゴ・バ レー
14	我謝 ロドリゴ アンドレス	18	Gaja Rodrigo Andres	アルゼンチン	在亜沖縄県人連合会	タンゴ
15	アブデルカデル オドレイ フェリシテ ルイズ	15	Abdel Kader,Felicite,Louise	フランス	沖縄日系人会	バスケット
16	城間 レナタ ちえみ	24	Shiroma Tiemi	ブラジル	カンボグランデ沖縄県人会	ダンス・エ イサー・三 線

県内参加者 16 名 ※太字は青年リーダー

—	氏名	Name	所属(学校名)	年齢	性別	特技
1	仲間 綺	Aya Nakama	知念中学校	14	F	チェロ・ピアノ・バドミントン
2	仲間 妃奈	Hina Nakama	浦西中学校	13	F	バドミントン
3	岸本 妃南子	Hinako Kishimoto	普天間中学校	13	F	ピアノ・バドミントン・そろばん・書字
4	長崎 花菜美	Kanami Nagasaki	那覇西高校	17	F	ヒップホップダンス・空手
5	佐和田 梢	Sawada Kozue	向陽高校	16	F	エイサー・ピアノ
6	山川 賢也	Kenya Yamakawa	向陽高校	16	M	エイサー・バレー
7	比嘉 ある	Aru Higa	開邦高校	16	F	ピアノ・合唱
8	百次 あゆみ	Ayumi Momoji	球陽高校	16	F	泡瀬京太郎
9	城間 愛里	Airi Shiroma	球陽高校	18	F	三線・書道
10	平良 樹里	Julie Taira	沖縄尚学高校	15	F	空手・暗算・ピアノ
11	ブースクリ 海 セザール クリストロワ	Bousckri Kai	沖縄尚学高校	15	M	ヴォイスパーカッション
12	金城 佳恋	Karen Kinjo	沖縄尚学高校	16	F	空手・バスケ
13	上原百代	Momoyo Uehara	名護高校	17	F	吹奏楽
14	大浜 秀吾	Shugo Ohama	名護高校	18	M	野球
15	大久 英美	Hidemi Daiku	八重山高校	16	F	エイサー・空手・バレー
16	眞榮城 駿	Shun maeshiro	沖縄国際大学	21	M	スポーツ全般

(7) 講師紹介

担当科目		講師
移民学習 (ワークショップI) 総合学習 (ワークショップIV・V)		沖縄 NGO センター 金城 さつき ONG は県内で数少ない国際協力に携わる市民団体で、そこで開発教育・国際理解教育ファシリテーター、沖縄県ホストファミリーバンク事業(派遣)、研修コース実施、会計などを務めた。第5回世界のウチナーンチュ大会ではイベントとして「レッツスタディー! ワールドウチナーンチュ事業」で県内の生徒たちと、移民先の県系人を結んだり、移民学習教材「チャンプレアンド」や「移民かるた」などの作成にも関わった。移民学習やウチナーネットワークを考える参加型ワークショップを担当する。
歴史学習		早稲田大学琉球・沖縄研究所招聘研究員 上里隆史 1976年生まれ。琉球大学法文学部(琉球史専攻)卒業。早稲田大学大学院文学研究科修士課程修了。現在、法政大学沖縄文化研究所国内研究員。第13回窪徳忠琉中関係研究奨励賞受賞。NHK・BS ドラマ「テンペスト」時代考証担当。《専門分野》古琉球史、海域アジア史。《主な著書》『目からウロコの琉球・沖縄史』、『誰も見たことのない琉球』(『島人もびっくりオモシロ琉球・沖縄史』)
社会学習 I		那覇まちなみガイド 経験豊富な地元ガイドと那覇のまちを歩いて、今までとは違う角度から那覇を観て楽しむことができる。。また、国際通りのコースでは、活気溢れる公設市場の中に入り沖縄の食文化や戦後那覇市がどの様に復興していったかなどを紹介する。
社会学習 II		沖縄こどもの国 専務理事・施設長 高田 勝 東京都の品川区生まれ。小さな頃から昆虫や動物に魅せられ、中学生の時には、国の天然記念物に指定されている17種のニワトリ全種類を飼ったことがあるというくらいの生き物好き。東京農業大学卒業後は進化生物学研究所に勤め、その後今帰仁村に移住し、自身の農場で「今帰仁アグー」を400頭を飼育、繁殖させている。また、こどもの国の田んぼで沖縄の在来米3種の植えつけを行うなど、「種」の維持・保存は、「文化」の維持・保存を掲げ、精力的な活動を展開。
自然学習		金武町ネイチャーみらい館 ネイチャーみらい館は『海』、『川』、『田園』に囲まれた、静かでのどかな場所に立地しており県内でも有数の複合型の自然体験学習施設である。世界に誇る美ら海をシュノーケル・ビーチコーミングなどで体感したり、キャンプファイヤーや星空観察などで忘れられない思い出を作ることができる。悪天候でも多くの自然、歴史、文化、人にふれあうことができる。また、金武町は移民発祥の地として世界各地の移住国との友好親善を掲げている。
移民学習 (ワークショップII)		WYUA 世界若者ウチナーンチュ連合会事務局長 比嘉千穂 第5回世界のウチナーンチュ大会をキッカケに沖縄本部を中心に「WYUA」を発足、アメリカ・ハワイ・ブラジル・ポルトガル・アルゼンチン・台湾に支部を置く。「世界若者ウチナーンチュ大会」の企画・運営、移民創作ダンス「琉球ストンプ」、伝統芸能の継承、ウチナーグチの普及活動を行い、各市町村の若者や留学生・研修生と共にイベント企画も実施。それらを通しての交流の促進によって、沖縄の未来をにんう人材の創出をはかり「世界のウチナーンチュ」の発展を担うことを目的とし活動中。
平和学習 (ワークショップIII)		ひめゆり資料館 学芸員 古賀徳子 南風原文化センター職員などを経て現職。ワークショップやファシリテーションの実践を続け、特に平和教育の手法を磨く。これまでの沖縄における平和教育はどうだったのか?これからどんな形で平和教育を進めていけばいいのかを模索し、参加型手法のフォトランゲージや、ロールプレイを通して沖縄の平和教育を作ってきた。
伝統工芸・芸能体験学習		TAO ファクトリー 代表 蔵當慎也 伝統的な「組踊」を現代風にアレンジした舞台を制作・演出・プロデュース。若い世代の子供たちが沖縄各地の歴史や伝承を題材にミュージカル仕立てのエンターテインメントを演じる。1999年「肝高の阿麻和利」の初演以来、その舞台は海外へも展開中。2004年～沖縄の移民の父「當山久三ロマン～未来の瞳」を金武町で年1回公演している。2011年代表理事交代 平田大一から蔵當慎也氏へ

2.実施内容

第一回 事前学習 7/6 (土)

■第一回の概要

期待と不安を抱えながら、参加者とスタッフの初顔合わせ

本番の学習プログラムの前に2回にわたって行われた国際交流の素地を作る事前学習の第一回目。県内参加者やスタッフにとっても今回は初顔合わせとなった。

改めて事業の趣旨を説明し、今回選ばれた県内参加者はホストとして海外参加者を迎えなくてはならないと心構えも共有した。

また、参加者同士、スタッフ間の緊張をほぐすために、青年リーダーの眞榮城君をファシリテーターとして自己紹介とアイスブレイクを行い、互いの人となりを知る時間を設けた。

移民の歴史を学ぶ

後半は JICA 教師海外研修で、ボリビアで研修をした先生を講師に招き、コロニアオキナワ（沖縄村）やそこで暮らす県系人が沖縄の文化を守りながらの生活している様子を紹介した。

世界中に広がる沖縄移民の一端だが、県内参加者にとっては初めて知る事で、驚きは大きかったようだ。そんな世界中に広がる沖縄の仲間たちを故郷沖縄に迎え入れるため、「今の沖縄」を紹介する準備を始めた。



ボリビアO×クイズ

一日の主なプログラム

目的：県内参加者を対象とし、ホストとして県外参加者を受入れる心構えを持たせる。

時間：9:30～13:00

場所：JICA沖縄国際センター 多目的室
人数：30名（県内参加者15名、県内青年リーダー1名、ボランティア10名、チューター4名）

進行：JOCA 沖縄 我如古

9:30～ 事業概要説明

10:00～ アイスブレイク&自己紹介

11:00～ 沖縄移民の歴史講座

12:00～ 沖縄紹介プレゼン作戦会議



スタッフ紹介の様子

■詳細

【沖縄移民の歴史講座】 11:00 ~ 12:00

目的：UJSの目的・内容などを確認し事業への理解促進を図る。

講師：辺土名 章子先生

(JICA 教師海外研修ポリビア派遣)

プログラム：

- ① ポリビア〇×クイズ
- ② ポリビア紹介（教師海外研修スライド）
- ③ フォト・モノランゲージ（古写真・民具）

沖縄の文化を守り続ける移民

まずはウォーミングアップでポリビア〇×クイズをした。海に面していないことや学校が2部制で午前午後で生徒が全部入れ替わることなど、日本とは違う様子がわかってきた。

そして講師がJICA教師海外研修でポリビアに研修旅行した時の写真などを使って、現地の衣食住をはじめ、沖縄の伝統文化を守り続けて生活するコロニアオキナワ（沖縄村）の様子を紹介した。

そして、移民時代の古写真やポリビアの民具を使い、グループに分かれてそれが一体何なのか（場面・状況・使い方など）を考え、意見をまとめて共有するワークを行った。初めて目にする写真やモノに戸惑いながらも、想像力を含ませながら、徐々に意見が出せるようになってきた。



古写真を使って移民学習

【沖縄紹介プレゼン作戦会議】 12:00~13:00

目的：ホストとして海外参加者を受け入れるため、沖縄紹介プレゼンの作成をする。

進行：青年リーダー 眞榮城 駿

プログラム：

- ① 沖縄の良いところブレインストーミング
- ② プレゼンの仕方を決める

中・高校生が考える「今の沖縄」を紹介する

移民の歴史について学び、海外参加者がどれだけ沖縄への憧れや愛情を持って来沖するかがわかってきた。そこで、県内参加者はホストとして迎え入れるため、沖縄の事を紹介するプレゼンの作成をした。

まずは沖縄の何を伝えたいかブレインストーミングしながら付箋紙を使って意見を出し合い、それらをまとめてグループ毎に発表した。



伝えたい「今の沖縄」アイデア出し



自然・観光・食べ物・行事など

第二回 事前学習 7/20 (土)

■第二回の概要

プレゼンテーションを改善

第一回目の事前学習で海外参加者に伝えたい「今の沖縄」についてグループ毎にテーマを決め、各自写真などの情報を集める宿題を出した。それらを持ち寄ってパワーポイントに落とし込み、一つのプレゼンを作成する作業を行った。

その後、本番さながらに模擬発表会を行って、スタッフやボランティアに審査をしてもらい、良い点や修正点を挙げて改善すべきポイントを洗い出した。

各参加者は2週間の間に写真や説明資料などの材料を沢山集めて来ており、大人顔負けのプレゼンテーションを見せてくれた。

ボランティアが交流プログラム企画

UJSの一つの特徴でもある、過去の参加者によるボランティア交流企画。ウェルカム・フェア、ウェルパーティーやキャンプファイヤーなどの交流プログラムの内容を考えてもらう時間を設けた。どうやったら参加者同士の交流が深まり、良い思い出となるか真剣に意見を出し合っていた。



プレゼン後、審査員からコメント

一日の主なプログラム

目的：学習プログラムのオリエンテーション時に実施する沖縄紹介プレゼン作成。

時間：9:30～13:00

場所：JICA 沖縄国際センター 多目的室

人数：30名（県内参加者16名、ボランティア10名、チューター4名）

進行：JOCA 沖縄 我如古

9:30～ 沖縄紹介プレゼン準備

11:00～ 模擬発表会（リハーサル）

12:00～ プレゼン改善



プレゼンのテーマと方法

■詳細

【模擬発表会（リハーサル）】11:00～12:00

目的：沖縄紹介プレゼンのリハーサルを行い、改善することで発表の質の向上を図る。

プレゼンテーション：

- ① 沖縄の食文化
- ② 沖縄の自然
- ③ 沖縄の音楽
- ④ 沖縄のスポーツ

緊張しながらもそれぞれの持ち味を發揮しながら模擬発表

「初めて人前でプレゼンテーションをするから緊張しています。」と何名かの参加者が鼓動の高鳴りを抑えきれずにいたが、そんな心配をよそに、舞台に立つとどの参加者もはきはきと発声し、全体の流れもスムーズで立派なプレゼンテーションを見せてくれた。

自分の好きなタコライスの名店を紹介したり、沖縄には人工ビーチが38か所もあることを伝えたり、三線の実演をして合唱したりなど、それぞれの持ち味や特技を發揮していた。

スタッフやボランティアで構成した審査員は厳しくも優しいコメントをし、海外参加者に向けて発表する本番に向けて改善点を明らかにした。会の最後には「声が大きかったで賞」などの良い点を表彰して終了した。



沖縄の食文化班



沖縄の自然班



沖縄の音楽班



沖縄のスポーツ班



審査員の面々

学習プログラム【一日目】8/4（日）

■一日目の概要

海外参加者が合流してジュニアスタディースタート

学習プログラム初日は県内参加者と海外参加者が合流し、緊張の面持ちでのスタートとなった。参加者は一堂に会しても、最初はそれぞれの出身地や言語別で集まり、まだまだ国際交流には至らなかった。

最初のプログラムは開講式・オリエンテーションで今回の事業の目的やスケジュールを確認し、これから始まる7日間の心の準備を整えた。



参加するにあたっての期待と不安を共有

徐々に打ち解けていく参加者たち

午後からは県内参加者による沖縄紹介、海外参加者による自国紹介が行われ、それぞれの持つ背景を共有し、これから始まる異文化交流に期待を膨らませる時間となった。

その後、ボランティア（ジュニアスタディーズの過去の参加者）が企画する交流プログラムを実施した。アイスブレイクを兼ねてリーダーの質問に対して一歩前に出て意思表示をする「初めの一歩」ワークをしたり、新聞ゲームやじゃんけん列車などを通じて参加者同士の交流やチームビルディングを図った。

言語の壁を越えた交流を通して、徐々に打ち解けていく参加者たちには笑顔が見られ、その後は出身国を気にせず積極的に声を掛け合う様子が見られるようになってきた。

一日の主なプログラム

主な目的	参加者のチームビルディング
場 所	JICA 沖縄国際センター
10:30	開講式・オリエンテーションⅠ
13:00	オリエンテーションⅡ
15:00	交流プログラム 「ボランティア企画」
17:00	ウェルカムパーティ

そんな中迎えたウェルカムパーティにはホームステイ受け入れ先の方々やご家族、ブラジル協会などの海外県人会関係者らが集まり、計100名近くの来場者で賑わった。余興ではそれぞれの特技を発揮し、空手や三線などの伝統芸能から、メキシコやアルゼンチンの伝統舞踊なども披露し賑わった。

一週間の主なプログラム

一日目 8/4（日）

- ・開講式/オリエンテーション
- ・ウェルカムパーティ

二日目 8/5（月）

- ・社会学習Ⅰ
- ・県知事表敬
- ・移民学習

三日目 8/6（火）

- ・歴史学習
- ・伝統芸能学習

■詳細

【開講式・オリエンテーション】10:30～15:00

目的：今回の学習プログラムの目的・内容などを確認し事業への理解促進を図る。

司会進行：JOCA 沖縄 我如古

場所：JICA 沖縄国際センター 多目的室

プログラム：

- ① UJS 事業の目的と概要説明
- ② 参加にあたっての心構え確認
- ③ アイスブレイク&自己紹介

(自己紹介：名前・学校・趣味・持ちネタ or チャームポイント)

【交流プログラム】15:00～16:30

目的：参加者同士の交流を図り、積極性を持たせる。

司会進行：青年リーダー 眞榮城 駿 他ボランティア (過去のジュニアスタディ参加者)

プログラム：

- ① 新聞ゲーム
- ② じゃんけん列車
- ③ ダンス



沖縄紹介の様子



新聞ゲームの様子

参加者同士の文化背景を紹介

UJS 最初のプログラムとなる開講式では、参加者と事業の目的を共有し、より良い学び・交流の場となるように心構えなどを確認した。その後、県内参加者による「今の沖縄」紹介をし、海外参加者は出身国の紹介を行った。それぞれ事前に用意していたプレゼンテーションを行い、映像なども駆使してそれぞれの持つ文化背景を紹介する時間となった。

ボランティアの橋渡し

県内青年リーダーの眞榮城君の進行と、ボランティアの協力のもと、体を動かして様々な交流プログラムが催された。

まずはアイスブレイクや自己紹介を行って、互いの人となりを知る時間を作った。その後、ボランティアを含めた7名×7グループに分かれ徐々に折りたたまれていく新聞紙の上にどこまで乗っていただけるかのゲームを行った。会場は笑いに包まれ、言葉の壁を越えた交流が生まれていた。

四日目 8/7 (水)

- ・自然学習
- ・総合学習 I
- ・キャンプファイヤー

五日目 8/8 (木)

- ・社会学習 II
- ・平和学習

六日目 8/9 (金)

- ・総合学習 II/III (まとめ)
- ・研修成果発表準備

七日目 8/8 (木)

- ・自然学習 II
- ・閉講式/フェアウェルパーティ

【ウェルカムパーティ】17:00 ~ 19:00

目的:参加者のホームステイ先及び家族を含む関係者で歓迎パーティを開き、楽しい時間を過ごしながら緊張をほぐす。

場所: JICA 沖縄国際センター 体育館

司会: ボランティア (金城・並里)

プログラム:

歓迎の挨拶 沖縄県知事公室秘書広報

交流統括監 久貝 富一

乾杯の音頭 沖縄ハアメリカ連合会

会長 大山 盛稔

～食事・懇談～

参加者代表挨拶 長崎 花菜美

～余興～

1. 空手 平良 樹里
金城 佳恋
2. 泡瀬京太郎 百次 あゆみ
3. 焼シカダンス エステアニ サリ 高良 伸程
4. アルゼンチンタンゴ 我謝ドリア、我謝マリア、
比嘉ハ村

～記念撮影～



観客を魅了したアルゼンチンタンゴ

関係者へ参加者のお披露目

参加者同士が互いの育った国の事を学び、徐々に打ち解け始めた頃、関係者を招いて歓迎パーティを開催した。

ご挨拶や個々人のゆんたくの中でもこの事業に期待することや移民への「想い」が伝えられ、多くの関係者に支えられてこの事業が成り立っていることを実感した。

そして余興ではそれぞれが伝統芸能の技を披露し来場者を盛り上げた。同じルーツを持ったウチナーンチュがそれぞれの国で逞しく生きている姿が体感できる時間となった。



ホームステイ先や家族と一緒に

参加者の感想から【一日目】

※参加者は期間中、一日の終りに振り返りシートを記入していた。下記はその抜粋である。

【本日のプログラムで得たもの、学んだもの】

- ・沖縄に住んでいる私達よりも、海外参加者は沖縄のことをたくさん知っていて驚いた。(国内参加者・女)
- ・みんな自分たちの国の文化を大切にしていることがわかった。それらの文化を再認識し、尊重しなければならないことも学んだ。(海外参加者・女)
- ・海外参加者のプレゼンを通じて、海外の歴史・風習をはじめて知ることができた。(国内参加者・女)

【本日のプログラムにおいて、疑問点、自分自身の課題は見つかりましたか？】

- ・国内参加者のメンバーとあまり話せなかったのが、ジェスチャーや分かる言葉を交えてもっと積極的に交流したい。(海外参加者・女)
- ・他国のウチナーンチュは方言を話せるのか。ウチナーンチュ同士で集まるときは、日本語や方言で話すのか気になった。(国内参加者・女)
- ・沖縄に住んでいるからといって、沖縄のことをよく知っているわけではないと気付いた。知っているふりではなく、もっと自分から動いて沖縄を知っていききたい。(国内参加者・女)

【自分自身が積極的に学び、グループの取り組みに参加できましたか？】

- ・前半はコミュニケーションが取れるか心配であまり話さなかったが、後半からは頑張っている人々に自己紹介をした。(国内参加者・女)
- ・沖縄紹介プレゼンは緊張したけれど、グループみんなで準備・練習をして頑張った。(国内参加者・女)
- ・アイスブレイクで積極的に参加者たちと交流できた。(海外参加者・女)

【ウチナーネットワークを担う一員としてどんなことをやっていきたいと思いましたか？】

- ・いま体験していることを自分の県人会に活かしていきたい。(海外参加者・男)
- ・他の参加者たちとコミュニケーションをとるために日本語を学ぶようにする。(海外参加者・女)
- ・まずは他国のウチナーンチュのことを知る。そして自分がどうあるべきかを考える。(国内参加者・女)
- ・今の沖縄や自分たちの生活について話してみたい。(国内参加者・女)



まだ同じ国同士で固まっている昼食時



緊張した面持ちで自己紹介

学習プログラム【二日目】8/5（月）

■二日目の概要

本格的にプログラム開始

まず、那覇まちま〜いでは専属ガイドの案内のもと、牧志公設市場を中心とした国際通り周辺を散策し、沖縄県民の衣食住を支えてきた街の様子を見学した。沖縄出身者でも知らない情報があり、内容が豊富だったため、海外参加者・県内参加者の両方から評判が良かった。

その後沖縄県庁を訪問し、主催者である沖縄県庁に、事業に参加するにあたっての決意を伝えた。

午後は本事業のメインテーマである「移民」について考えるワークショップを実施し、自分は何者であるかを考え、意見交換し、一日を終えた。

アイデンティティを揺さぶられる参加者たち

午後の移民学習のワークショップの時、本事業の核心に迫る出来事があった。「私は何人？」というテーマで、自分という人間を構成する文化背景を確認する作業だ。その最中、海外参加者の一人が泣き出してしまった。本人曰く、「私は海外にいたら日本人と言われ、日本にいたら外国人と言われ、一体自分が何者なのかわからなくて辛かった。」とのこと。これがこの事業の核心に迫る場面となった。彼らは親や祖父母から自らのルーツである沖縄の話を聞き、三線やエイサーを習い、沖縄そばを食べて育ったものの、



「私は何者」ワークショップの様子

一日の主なプログラム

主な目的：社会学習と移民学習を通じて仲間
のルーツを再認識する。

場所：沖縄県庁及び国際通りなど

- 9:00 社会学習 I
「那覇まちま〜い」
- 11:00 県庁表敬訪問
- 14:00 移民学習
- 19:00 課外事業 I

まだ一度も沖縄の地を踏んだことはなかった。反対に、県内参加者である沖縄の中高校生たちは、この様な移民の歴史や同じ沖縄をルーツとする仲間の存在を初めて知り、理屈なしにその大切さを感じ取った様子だった。

一週間の主なプログラム

一日目 8/4（日）

- ・開講式/オリエンテーション
- ・ウェルカムパーティ

二日目 8/5（月）

- ・社会学習 I
- ・県知事表敬
- ・移民学習

三日目 8/6（火）

- ・歴史学習
- ・伝統芸能学習

■詳細

【社会学習Ⅰ】9:00～10:00

目的：まちま～いガイドと共に国際通りを散策し、沖縄の食・生活文化を感じる。

講師：那覇まちま～いガイド 7名

場所：国際通り、平和通り、牧志公設市場等
プログラム：

- ① 6グループ（言語別）に分かれ、街中散策
- ② 国際通りの成り立ち（戦後復興）について
- ③ 沖縄の衣食住について



牧志公設市場での様子

同じ食文化を持つ仲間であること

初めて沖縄を訪れる海外参加者にとって、自国と似た食材や料理などを実際に見ることで、同じ食文化を持つウチナーンシュであることを確認できた。戦後復興の過程でこの商店街が出来たことを知り、そこに生きる人々の逞しさや人懐っこさが、かつて移民先で苦労して開拓してきた先人たちに重なり、親しみを感じていたようだ。

県内参加者にとっても初めて知ることが多く、普段の生活では行かないような市場の裏側に行ったり、お店の人と会話をしたりして楽しんでた。中でもシーブンと呼ばれる「おまけ」については、かつての沖縄ではごく普通の習慣だったことに衝撃を受けたようだった。

【県庁表敬】11:00～11:30

目的：主催者への挨拶、本事業の目的確認

場所：沖縄県庁1階 県民ホール

司会：交流推進課 渡嘉敷 礼

プログラム：

歓迎の挨拶 沖縄県知事公室長
又吉 進

参加者代表挨拶 海外参加者代表
金城 梨枝（ブラジル）
県内参加者代表
大浜 秀吾（名護高校）

～記念撮影（中庭にて）～



県庁表敬時の金城さんのスピーチ

参加の決意を新たに

今年で13回目となるウチナージュニアスタディー事業、その主催者である沖縄県庁に表敬訪問し、関係者や取材陣の前で参加にあたっての決意表明をした。赤いポロシャツで衣装を揃えた参加者たちはそれぞれの国を代表するものとして国旗を掲げ自己紹介をした。ブラジルからの参加者である金城さんは「ずっとこの事業に参加したかった」という沖縄に対する想いや、今回の機会に積極的に学びを深め、その経験を周りに伝えていきたいという決意を力強く述べた。

四日目 8/7 (水)

- ・自然学習
- ・総合学習Ⅰ
- ・キャンプファイヤー

五日目 8/8 (木)

- ・社会学習Ⅱ
- ・平和学習

六日目 8/9 (金)

- ・総合学習Ⅱ/Ⅲ(まとめ)
- ・研修成果発表準備

七日目 8/8 (木)

- ・自然学習Ⅱ
- ・閉講式/フェアウェルパーティー

【移民学習】 14:00 ~ 18:00

目的： 沖縄の移民の歴史について学び、ウチナーンチュアイデンティティについて考え・共有し、その多様性を知る。

講師： 沖縄 NGO センター 金城さつき氏
比嘉 加リーナ氏

場所： JICA 沖縄国際センター 多目的室
プログラム：

- ① アイスブレイク「人間知恵の輪」
- ② フォトランゲージ（初期移民の写真）
- ③ 世界のウチナーンチュかるた
- ④ 「私はなにに人？」ワークショップ

【課外事業 I】 19:00 ~ 20:00

目的： ペルーのおばあちゃんのストーリーをもとに、一人の人間としての生き様を知る。

講師： 沖縄県国際交流員（ペルー）
アルトゥーロ トヤマ ヒガチ

場所： JICA 沖縄国際センター 多目的室
プログラム：

- ① 自己紹介 & ペルー紹介
- ② 僕のおばあちゃん（日本語弁論大会スピーチより）
- ③ 国際交流員として実現したいこと

移民学習を通じてジュニアスタディ事業の核心に迫る

まずはグループにわかれて、初期移民の拡大写真を見て感じたことや想像できることを自由に記述し、全体に共有するワークをした。

白黒の写真から当時の苦労や、互いに支え合って開拓してきた様子が伝わり、海外参加者からの実体験の話も加わって、移民の歴史についてより鮮明にイメージ出来る様になってきた。

前知識が出来た段階で、更に楽しく移民について学ぶために「移民かるた」を使って学習した。どの参加者も夢中になって札を取り合い、その裏に書かれている移民の歴史についてもしっかりと読んでいた。

そして最後にこの事業の核心に迫る自分のアイデンティティを探るワークをし、今の自分が何によって構成されているか深く考える時間となった。



移民かるたでの真剣なまなざし

県系人としての想いとおばあちゃんへの恩返し

夕食後、課外授業として同行していた国際交流員のアルトゥーロさんから、県系人としてペルー・日本で生きてきた経験や、その中で培ってきた先人たちへの恩返しの気持ちを参加者に伝えてもらった。

ユーモアに溢れつつも、実体験に基づいて話される自分の移民史は、海外参加者、県内参加者両方にとって、より身近に感じられる内容だった。かつて自分もアイデンティティに揺れていたこと、苦労して自分を育ててくれたおばあちゃん、そしてその恩に報いるためにも沖縄で活動していることなど、多言語で語るその姿が彼の努力を物語っていた。



国際交流員アルトゥーロさん

参加者の感想から【二日目】

【本日のプログラムで得たもの、学んだもの】

- ・ 県庁訪問では、ジュニアスタディ事業を積極的に取り組み、これからの自分のために活かしていくぞ!と思った。(国内参加者・女)
- ・ 昔の出来事が今の私たちの生活に繋がっていること、そしておじいちゃんおばあちゃんはずごく大変な思いをしたことを改めて感じた。(海外参加者・女)
- ・ 私も今自分の父、母、おじい、おばあが踏んでいたこの土地をここ沖縄で感じていることにとっても感謝している。(海外参加者・女)
- ・ 他国の県系人によって引き継がれた沖縄の文化やウチナーンチュアイデンティティに興味を持った。アイデンティティが半分無いような、あるいは二つあるような感じがした。(海外参加者・女)

【本日のプログラムにおいて、疑問点、自分自身の課題は見つかりましたか?】

- ・ 今失われつつある方言や日本語、移民の歴史を勉強して母国で教えたい。(海外参加者・女)
- ・ 言葉の意味も含めて、『アイデンティティ』がよくわからなかった。まずは、両親の出身地やこれまでの人生について、調べたり聞いたりしたい。(国内参加者・女)
- ・ 初めて国際通りについて深く知ることができ、日常的に通っている場所なのに何もわからなくて少し驚いた。疑問なのは沖縄の昔の歴史をどうやって調べればいいのか分らない。(国内参加者・女)

【自分自身が積極的に学び、グループの取り組みに参加できましたか?】

- ・ アイデンティティについて、海外メンバーそれぞれの意見が聞けて勉強になった。国内参加者の意見も聞きたい。(海外参加者・女)
- ・ 積極的に学べたが、自分のアイデンティティに対する思いをみんなに上手く伝えることができなかった。(海外参加者・女)
- ・ アイデンティティワークのとき、沖縄人としての良いところ、悪いところをあげることができた。(国内参加者・女)

【ウチナーネットワークを担う一員としてどんなことをやっていきたいと思いましたか?】

- ・ 移民した沖縄の人々が明るく生きられるように、どんな風に困難を乗り越え諦めなかったかということ伝えたい。(海外参加者・女)
- ・ 自分がウチナーンチュの子孫だということをもっと自覚したい。(海外参加者・女)
- ・ 今日のお昼では自ら英語で話し、自己紹介やいろんな事を話せた。今日のように積極的にコミュニケーションをとり、友達を作っていきたい。(国内参加者・男)



徐々に打ち解けてきた参加者たち

学習プログラム【三日目】8/6（火）

■三日目の概要

沖縄の歴史・伝統文化に触れ、先人の知恵を学ぶ

3日目は沖縄の歴史と伝統文化についてどっぷりと浸かる一日となった。

まずは座学で琉球の歴史を学び、その後首里城を見学、そしてバスで移動し、うるま市で現代版組踊パフォーマンスの体験をした。聞く・見る・触れるなどの五感をフル活用させての一日は、参加者に充実した学びをもたらした。



組踊パフォーマンス練習風景

組踊パフォーマンス練習が始まる

ジュニアスタディ事業の名物として、最終日に行われるフェアウェルパーティーでの演舞の発表がある。昨年まではエイサーに取り組んでいたが、今年度は新たなチャレンジとして「現代版組踊パフォーマンス」に変更した。

キムタカホールで同世代の中・高校生たちが真剣に組踊に取り組む姿勢を見て刺激を受けた参加者たち。その日の夕方から本格的に始まった練習だったが、溜まってきた疲れをものともせず、TAO ファクトリーの指導者の一挙手一投足を見逃すまいと模倣をしていた。

初めて見る振付に戸惑いながらも、空き時間を見つけては練習を繰り返している姿に、「うまくなりしたい！」という強い意志が感じられた。

一日の主なプログラム

目的：沖縄の歴史・伝統文化を学ぶ

場所：首里城・キムタカホール

金武ネイチャーみらい館 他

8:30 歴史学習Ⅰ

11:00 歴史学習Ⅱ

14:30 伝統芸能学習Ⅰ

20:00 伝統芸能学習Ⅱ

一週間の主なプログラム

一日目 8/4（日）

- ・開講式/オリエンテーション
- ・ウェルカムパーティ

二日目 8/5（月）

- ・社会学習Ⅰ
- ・県知事表敬
- ・移民学習

三日目 8/6（火）

- ・歴史学習
- ・伝統芸能学習

■ 詳細

【歴史学習Ⅰ】 8:30 ~ 10:30

目的：琉球王国の時代の歴史を学び、過去から現在の沖縄をつなぐ視点をもつ

講師：上里隆史先生

場所：JICA沖縄国際センター 多目的室

内容：

- ・ 沖縄の島々と海
- ・ 琉球王国の誕生（小国としての生き方）
- ・ アジアへ乗り出した交易の時代 など



テレビドラマ「テンペスト」を監修した上里隆史先生

【歴史学習Ⅱ】 11:00 ~ 12:00

目的：歴史学習Ⅰで学んだ琉球王朝時代の歴史の舞台を実際に見て学ぶ。

場所：首里城

プログラム：

- ・ 学芸員による解説
- ・ 首里城見学



正殿前で解説を受ける参加者

沖縄文化はどのように育まれてきたのか琉球王朝時代から探る

「目からうろこの琉球・沖縄史」でお馴染みの上里隆史先生を講師に迎え、沖縄がどのような歴史を経て現在まで至ったのか、とくに「琉球王国」の時代に焦点を当てて学んだ。

既存の教科書などではわからない興味深い歴史の裏話なども織り交ぜ、思わず「なるほど」とうなずくような発見があったようだ。上里先生は参加者に向かって「過去から現在の沖縄をつなぐ視点を持ち、そこから未来への可能性を模索する視点を養うように」と話していた。

繁栄した琉球王朝の仕来りや慣わしを首里城の造りから学ぶ

琉球王国の時代に政治・外交・文化の中心であった首里城は、防衛のためだけではなく、宗教や風水の考え、儀式を執り行うための仕様など、様々な要素が考慮され建築されている。参加者たちは学芸員から解説を受け、実際に歩いて正殿内を回った。タイルで色分けされた中庭は儀式の際に諸官が位の高い順に並ぶ目印の役割を持っていること。中央の道を「浮道（うきみち）」と呼び、国王や中国皇帝の使者（冊封使）等、限られた人だけが通ることを許されたことなど、当時の様子が分かりやすく説明された。

四日目 8/7 (水)

- ・ 自然学習
- ・ 総合学習Ⅰ
- ・ キャンプファイヤー

五日目 8/8 (木)

- ・ 社会学習Ⅱ
- ・ 平和学習

六日目 8/9 (金)

- ・ 総合学習Ⅱ/Ⅲ(まとめ)
- ・ 研修成果発表準備

七日目 8/8 (木)

- ・ 自然学習Ⅱ
- ・ 閉講式/フェアウェルパーティ

【伝統芸能学習Ⅰ】14:30～17:00

目的：「肝高の阿麻和利」舞台出演者と交流しながら現代版組踊を体験する

講師：平田大一氏

バックステージツアー：あまわり浪漫の会場

場所：キムタカホール

プログラム：

- ・バックステージツアー（稽古風景見学）
- ・組踊パフォーマンス体験
- ・「肝高の阿麻和利」のフィナーレ鑑賞

舞台に感動！**－アンケートで最高評価のプログラム－**

地域の中高生が活躍する現代版組踊「肝高の阿麻和利」。その舞台の練習風景を見せてもらうべく、参加者はうるま市へ向かった。会場では、沖縄県主催アジアユース人材育成プログラムの団体と合流し、合同でワークショップを実施した。

平田氏による太鼓演奏と声出しに始まり、稽古場を見学させてもらった後、バンドチーム、役者チーム、ダンスを担当する男子アンサンブル、女子アンサンブルの4つに分かれて、練習に参加した。

練習の後には、舞台出演者によって物語の最後のシーンが披露され、参加者の中には感極まって涙する者もいた。舞台はすべて日本語で行われるため、海外参加者には言葉の意味がわからなかったはずだが、「同じ年くらいの子たちが演じる姿にとっても魅了された」「感動しました。彼らの表情を忘れません。一言も話していないのに、言いたいことが伝わったからです。」との声があがっていた。アジアユースの参加者



女性アンサンブルのパート練習

と友達になったと話す者もいた。事後のアンケート調査でも、最も人気の高いプログラムとなっていた。

【伝統芸能学習Ⅱ】20:00～21:00

目的：現代版組踊の一部を体験し、沖縄の文化やチームが一体となる達成感を味わう。

講師：TAO ファクトリー 藏當慎也氏他

場所：金武町ネイチャーみらい館

プログラム：

- ・TAO ファクトリーの紹介
- ・準備体操、パート別練習

成果物発表会に向けて練習開始

夜はネイチャーみらい館に移り、本格的な組踊パフォーマンスの稽古が始まった。講師には「肝高の阿麻和利」卒業生で構成される TAO ファクトリーを招致。踊りには力強い動きが多く、空手や琉舞の要素もあり、参加者はついていくのに精一杯という感じであった。一方で、その日からの毎日の練習を通して、参加者同士の会話が自然と増えたようだ。感想には、「最初は県内参加者と海外参加者の間に壁があるように思えて、なかなか打ち解けられずにいたけど、組踊の練習・発表を通じて、心もひとつになれた気がします」と書かれていた。



男女別の練習風景

参加者の感想から【三日目】

【本日のプログラムで得たもの、学んだもの】

- ・首里城に行く前に琉球について知ることができて良かった。琉球人の「不幸なことがあってもその中でどう生き延びるのか」という言葉は考えさせられた。(国内参加者・女)
- ・阿麻和利の舞台にもものすごく感動した。沖縄の文化の素晴らしさを改めて感じる事の出来る良いきっかけになった。(国内参加者・女)
- ・自分の国では沖縄のことを学んでいなかったの、新しいことがいっぱいとても勉強になった。肝高の阿麻和利は、歴史だけでなく同世代の方々が生き生きした姿を見て、見習うところが多くあった。(海外参加者・女)

【本日のプログラムにおいて、疑問点、自分自身の課題は見つかりましたか?】

- ・日本史に少しでてくる沖縄史についてしか分からないので、もっと調べてみたいと思った。(国内参加者・女)
- ・琉球王国の話聞いて、日本の方々は沖縄のアイデンティティについてどう思っているのか気になった。(海外参加者・女)
- ・私たちが習ったダンスはレベルが高いけど、もっと練習すれば絶対習得できると思う。(海外参加者・女)

【自分自身が積極的に学び、グループの取り組みに参加できましたか?】

- ・阿麻和利を観てみんなの連帯感を学べたので、まとめる力をさらに身に付けたい。(国内参加者・女)
- ・勇気を出して自分から声をかけて海外参加者とたくさん喋ることができた。自分から行動することで、何かを得ることができるんだと思った。(国内参加者・女)
- ・ダイナミック琉球の一部を覚えたので、絶対に出来ると信じています。(海外参加者・男)

【ウチナーネットワークを担う一員としてどんなことをやっていきたいと思いましたか?】

- ・阿麻和利のメンバーのように、自分の住んでいる伝統文化をもっと知り、身に付け、沖縄の良さを発信できる人になりたい。(国内参加者・女)
- ・肝高の阿麻和利をみて、歴史をもっと知りたいと思わされた。私も誰かにそう思ってもらえるような活動をしたい、もっと沖縄のことを知ってもらえるような活動をしたと思った。(海外参加者・女)
- ・みんなで竹馬に挑戦した。このように日本や沖縄の遊びなどで交流を深めたい。(国内参加者・男)



キムタカホールではアジアユース人材育成プログラムとも合流して学んだ

学習プログラム【四日目】8/7（水）

■四日目の概要

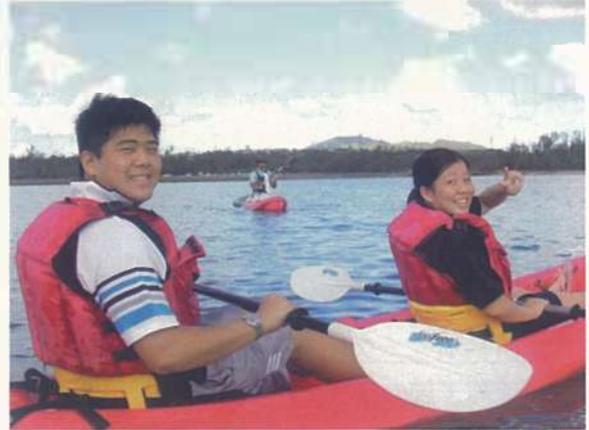
体を思い切り動かして沖縄の自然を満喫、忘れられない思い出に

これまでの三日間は座学やワークショップなど学びの要素が強かったため、4日目は早朝から思い切り体を動かしカヌーを漕いで大海原へ。透き通った海に感動しつつ、その自然を支えるサンゴ礁やマングローブなどの生態系も学び、自然の大切さをグローバルな視野で考えることが出来た。午後には世界にウチナーネットワークの大切さを広めている世界若者ウチナーンチュ連合会（以下 WYUA）のメンバーや過去のジュニアスタディー事業参加者が合流し、その「輪」を広げる一日となった。

プログラムも中盤、ウチナーネットワークについて考え始める

朝から晩まで寝食を共にし、一緒に学んできた32名。プログラムも中盤に差し掛かり、これまでの学びや話し合いから、ウチナーネットワークの大切さが漠然としながらも徐々にわかってきた。海外参加者は自らのルーツがやはり沖縄にあることを、県内参加者は世界中に沖縄の仲間がいることを知り、連帯感が生まれたと同時にウチナーネットワークのさらなる広がりに対する意識も強くなっていったようだ。県内参加者においては、海外参加者よりも沖縄の事を知らない自分を恥じているようでもあった。

頭の中を整理するためにも、これまでの体験やそこからくる「想い」を振り返り、それを今後どう行動に繋げていくのかを考える時間が必要で



カヌー体験

一日の主なプログラム

主な目的：沖縄の自然体験などを通して環境学習をするとともに、参加者同士の絆を深める思い出を作る。

場所：金武ネイチャーみらい館

9:00 自然学習 I

13:00 総合学習 I

17:30 BBQ

18:30 交流プログラム

20:00 キャンプファイヤー

あった。過去のウチナージュニアスタディー参加者や WYUA はその良い事例（道しるべ）を示してくれた。

金武ネイチャーみらい館での二日間はこれまでの個室ではなく、畳間の部屋（男女別）と一緒に就寝することになり、更に共通体験が増えることで心と心の繋がりが強くなったようだ。もう国や言葉の壁はなく、ワークショップなどでも積極的に発言する参加者が増えた。

一週間の主なプログラム

一日目 8/4（日）

- ・開講式/オリエンテーション
- ・ウェルカムパーティ

二日目 8/5（月）

- ・社会学習 I
- ・県知事表敬
- ・移民学習

三日目 8/6（火）

- ・歴史学習
- ・伝統芸能学習

■詳細

【自然学習Ⅰ】9:00～11:30

目的：沖縄に生息するマングローブの生態系について学び、世界共通のテーマである環境問題について考える。

講師：ふくらしやや自然体験塾

場所：金武町大浦湾・億尾川

プログラム：

2グループに分かれて、交互に自然体験

①カヌー体験

②マングローブ周辺を散策



マングローブ観察

沖縄の自然を体で体験、海外参加者は海の美しさに感動

参加者は歩きながらマングローブの生態系を学ぶ班と、カヌーに乗って大海原へ漕ぎ出す班に分かれて交互に体験し、頭と体を使って自然を満喫した。特に海のないボリビアから参加の2名にとっては「夢にまで見た光景」で、かけがえのない時間となったようだ。

この沖縄の海を守るためにも、世界中の仲間たちと環境問題について取り組んでいかななくてはならないと感じたようである。

【総合学習Ⅰ】13:00～16:00

目的：先人たちが築いてきたウチナーネットワークが若者が引き継ぎ、どんなことを行っていきたいか、若者ならではの視点からアイデアを出し合う。

講師：世界若者ウチナーンチュ連合会
事務局長 比嘉 千穂氏

場所：金武ネイチャーみらい館会議室

プログラム：

① ネットワークの活用方法のアイデア出し

② 世界若者ウチナーンチュ大会の企画



グループ発表の様子

深まってきたウチナーの「絆」、それをどう繋げていくか

本事業の目的でもあるウチナーネットワークの活用・あり方について、これまで学んできたことを振り返りながら、各グループに分かれて意見交換をした。そのアクションの一事例として「世界若者ウチナーンチュ大会」を自分たちで企画するならどんな内容にするか、大学生や県費留学生を仲間に加え、和気あいあいとアイデアを出しあった。最後に発表する際には審査員を置いて各企画案の順位付けをした。一位は広報やプログラム案のバランスが良かった津嘉山朱里男君率いるボリビア班だった。

四日目 8/7 (水)

- ・自然学習
- ・総合学習Ⅰ
- ・キャンプファイヤー

五日目 8/8 (木)

- ・社会学習Ⅱ
- ・平和学習

六日目 8/9 (金)

- ・総合学習Ⅱ/Ⅲ(まとめ)
- ・研修成果発表準備

七日目 8/8 (木)

- ・自然学習Ⅱ
- ・閉講式/フェアウェルパーティー

【バーベキュー】 17:30 ~ 18:30

目的：自然の中で食を囲みながら、国際交流の輪をひろげる。

ゲスト：

- ・ 県費留学生
- ・ 金武町海外移住者子弟等研修生
受入事業の研修生
- ・ ボランティア（ジュニアステイ過去の参加者）
- ・ WYUA メンバー



バーベキューの様子

【キャンプファイヤー】 18:30 ~ 21:00

目的：キャンプファイヤー交流企画を通し、言葉を越えた心の繋がりをつくる。

司会：ボランティア（玉城・仲村）

プログラム：

- 1 開会式
- 2 グループ対抗ゲーム
（○×ゲーム、ジェスチャーゲーム、リアクションゲーム、アームレスリング）
- 3 点火式～ダンス
- 4 閉会式



キャンプファイヤーでの点火式

国や言語、年齢の枠も越えて交流

本事業のOB・OGに加え、世界若者ウチナンチュ連合会、県費留学生、金武町海外移住者子弟等研修生受入事業の研修生を招き、BBQ とキャンプファイヤーを実施した。

焚火を囲んで歌う青春の時間

夕暮れ時からボランティア企画のグループ対抗戦に移り、ゲームを通して盛り上がる参加者たち。最後の締めくくりはキャンプファイヤーを囲んで、「島人の宝」などを歌い・踊り一生の記憶に残る時間を過ごした。



グループ対抗クイズ大会の様子



飴玉さがしで顔を真っ白に

参加者の感想から【四日目】

【本日のプログラムで得たもの、学んだもの】

- ・カヌー体験を通して、心をそろえないとうまく進まないことが分かり、心をそろえる大切さを学んだ。(国内参加者・男)
- ・仲間との時間の大切さを感じた。(海外参加者・女)
- ・これから、今の世界のウチナーネットワークについてどう活動していくかより深く考えた。この繋がりを絶やさず交流していきたい。(国内参加者・女)

【本日のプログラムにおいて、疑問点、自分自身の課題は見つかりましたか?】

- ・海外で移民や沖縄について広まっても、沖縄で移民について知っている人が少なければ意味がないので、沖縄でどうやって広げていくか考えたい。(国内参加者・女)
- ・この UJS が終わった後のことを何も考えていなかったのも、ワークショップで意見を出せなかった。自分の意見を持ち、伝えられるようにする。(国内参加者・女)
- ・みんなの意見を聞いて、褒めるだけでなく改善点も見つけるべきだと感じた。(国内参加者・女)

【自分自身が積極的に学び、グループの取り組みに参加できましたか?】

- ・話し合いのとき、意見がまとまらず大変だったがスタッフの皆さんが手助けしてくださり、発表することができた。(海外参加者・女)
- ・意見を出し合い、グループ皆でいいところを組み合わせると一つの意見をつくることができた。
- ・キャンプファイヤーでは、沖縄の曲でとても盛り上がれて本当に良かった。あんなにはしゃいだのは久しぶりだった。(国内参加者・女)
- ・キャンプファイヤーではグループで協力して沢山のゲームに挑戦し、仲良くなれた。(国内参加者・女)

【ウチナーネットワークを担う一員としてどんなことをやっていきたいと思いましたか?】

- ・このウチナーネットワークを広げている WYUA についてもっと知り、自分もこのように未来を広げる人になりたい。(海外参加者・女)
- ・WYUA のワークショップでは海外参加者は今回学んだことを自分の国で伝えたいという人が多かったのも、私は沖縄の友達に伝えたい。(国内参加者・女)
- ・いまの繋がりをどう維持し、広げていくかをもっと考えてみたい。(国内参加者・女)
- ・今日のワークショップであったように、出来ることなら海外で行われる世界若者ウチナーンチュ大会へ参加したいと思った。また、沖縄がもっと好きになった。(国内参加者・男)



WYUA のワークショップ：若者ウチナーンチュ大会の企画を体験

学習プログラム【五日目】8/8（木）

■五日目の概要

沖縄の先人たちがどのようにして逞しく生活してきたか過去を振り返る

ネイチャーみらい館での2日間を通して、参加者同士に友情が芽生え始めてきた五日目。沖縄こどもの国とひめゆり平和記念資料館に赴き、参加生の祖父母・曾祖父母の時代の沖縄について学んだ。

平和のために自分たちができることを考える

日本で最大の地上戦が繰り広げられ、県民の1/4が犠牲になった沖縄。参加者と同世代の子どもたちも学徒隊として出陣し、命を落とした。五日目の午後は、ひめゆり平和祈念資料館の視察と平和構築ワークショップを通して、戦争の実態を知ると同時に、沖縄がどのように復興してきたか、また平和構築のために現在どのような取り組みがされているかを学んだ。ひめゆり学徒隊の生き残りでもある、島袋淑子館長の話を聞き、胸を打たれた者もいたようだ。島袋氏は、「ウチナーンチュの子どもたちが沖縄で交流しているのは素敵なこと。平和だからできること。」と話してくれた。館内見学後のワークショップでは、平和構築のために自分たちに何ができるのか考え、ディスカッションを実施した。ワークショップではこれまであまり発言しなかった参加者が意見を言ったり、積極的に発表したりする姿が見られた。



ひめゆり資料館にて

一日の主なプログラム

主な目的：戦前・戦後の沖縄の人々の生活を振り返り、どのようにして逞しく生きてきたかを学ぶと共に、平和を希求する心を育む。

場所：沖縄こどもの国/

ひめゆり平和祈念資料館

9:30 社会学習Ⅱ

14:30 平和学習

19:00 パフォーマンス練習

資料館見学中のインタビューで、海外参加者が「沖縄の伝統芸能に触れる機会が多いが、戦争についての学習をすることはないので、興味深い」と話していた。事後のアンケートでも、県内よりも海外参加者からの評価が高く、海外参加者の平和学習に対する関心の高さが伺えた。

一週間の主なプログラム

一日目 8/4（日）

- ・開講式/オリエンテーション
- ・ウェルカムパーティ

二日目 8/5（月）

- ・社会学習Ⅰ
- ・県知事表敬
- ・移民学習

三日目 8/6（火）

- ・歴史学習
- ・伝統芸能学習

■ 詳細

【社会学習Ⅱ】 9:30 ~ 12:00

目的：自然や人との繋がりを大切にして生きてきた沖縄の先人の知恵を学ぶ。

講師：施設長 高田 勝氏

場所：沖縄こどもの国

プログラム：

- ① 沖縄の古民家を見学・解説
- ② 藍染体験
- ③ 豆腐作り（昼食）



藍染体験

昔ながらの生活を体験

沖縄こどもの国では、自然の厳しさと恵みのなかで、海や山、植物や生き物、そして人とのつながりを大切にしながら生きてきた沖縄の生活と、先人の知恵や技術を学んだ。園内にある「ふるさと園」には昔の沖縄の農家の屋敷が設置されており、参加生たちは家屋を実際に見て歩きながら、施設長の高田勝氏の説明を受け、人びとの暮らしを感じていた。藍染体験では各々好きなデザインの手拭いを作成。昼食はシンメナービを囲んで作りたてのゆし豆腐を食べ、昔ならではの食も体験した。

【平和学習】 14:30 ~ 17:30

目的：平和構築のための取り組みを学び、「平和を希求する心」を共有する。そして、一人ひとりが平和構築の発信基地となることを目指す。

講師：学芸員 古賀 徳子氏

場所：ひめゆり平和祈念資料館

プログラム：

- ① ひめゆり平和祈念資料館の展示見学
- ② アニメ「ひめゆり」鑑賞
- ③ 平和をつくるための方法を考え、共有



「わたしの気持ち」ワークシー

「平和の実現」というテーマに、グループで意見を一つにする

ひめゆり平和祈念資料館でのワークショップでは、グループごとに分かれ、館内を見学しての感想を共有し合った。次に、平和な世界の実現のために必要なアクションについて、用意されていた選択肢から優先順位をつけていくワークを行った。教育が先か、政治が先かなど微妙な選択に対してグループ内で意見が割れ、チューターがサポートに入りながら、グループとしての意見をまとめる作業を行った。

四日目 8/7 (水)

- ・自然学習
- ・総合学習Ⅰ
- ・キャンプファイヤー

五日目 8/8 (木)

- ・社会学習Ⅱ
- ・平和学習

六日目 8/9 (金)

- ・総合学習Ⅱ/Ⅲ(まとめ)
- ・研修成果発表準備

七日目 8/8 (木)

- ・自然学習Ⅱ
- ・閉講式/フェアウェルパーティ

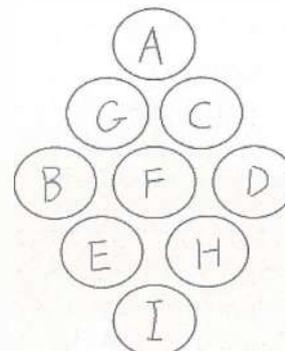
ひめゆり平和祈念資料館で行った平和構築ワークショップの一部を下記に紹介します。

「平和」をつくるための9つの方法

あなたが平和をつくるために行動するとしたら、どんな方法があるでしょうか。自分に何ができるのか、何から始めるべきなのかを考えてみましょう。

例として、下記に8つの方法をあげています。あなたのアイデアを加えて9つの方法にしてください。そして、あなたが取り組むべきこと、重要だと思うことをランクづけして、上から○の中に一つずつ書き入れてください。自分で記入した後で、グループで意見交換してみましょう

- A 差別や偏見を持たないで一人ひとりの人間の命と尊厳を大切にする。
- B 国際交流の活動をおこなって外国人と友だちになり、異文化を理解する。
- C どんな形の暴力も使わない。他の人が暴力を使うことも許さない。
- D 音楽やアート、演劇などを通して、平和をテーマにしたイベントを開く。
- E メディア（新聞やテレビ、インターネットなど）を通じて、平和の大切さを訴える。
- F クラスや学校で、「戦争」「平和」について話し合う。
- G 他の人と意見が対立したときは、わかるまで耳を傾け、話し合って解決する。
- H 国と国との争いを平和的に解決するよう、政治家にはたらきかける。



グループ2の例

発表例(グループ2):

長崎 花菜美、エステファニ さゆり 高良 仲程、
比嘉 バネサ ダフネ、サキハラ タイラ リカルド、
眞栄城 駿(発表者)

一段目

ぼくたちのグループは、一番上は全員Aでした。個人個人がそういう考えを持つことで戦争、争いがなくなるのではないかと一致しました。

二段目

GとCに関しては、人間として当然のことで、暴力は何も生まない、話し合いで解決することが大事だと思いました。

三段目

Bに関しては、僕の個人的な意見。異文化を理解すること、その国が何で困っているのかも知ることが大切。Fは小さい頃の教育で、対話の思考、考え方が養われるのではないかと思う。Dは資料だけみて、書いて勉強することも大事だが、音楽、アートも融合すれば若い人も興味を持ってくれるのではないか。



グループ2の発表

四段目

Eは先ほど見たアニメ「ひめゆり」とかわかりやすいかたちで、絵や映像で伝えることができる。Hはアルゼンチン、ペルー、日本と政治家の評判がよろしくなかったので順位としては低いです。ただ、外交も重要だよねとの意見も。

五段目

I：世界各国で平和学習を行って、「子供の世界から戦争を消す」というアイデアもあった。

参加者の感想から【五日目】

【本日のプログラムで得たもの、学んだもの】

- ・昔の人は、今の人よりずっと自然と共に生きてきたのだなと感じた。藍染も初めて体験して、綺麗に染められて嬉しかった。自然の力のすごさやこれを発見した昔の人もすごいと思った。(国内参加者・女)
- ・ひめゆり資料館で、映像やお話を聞いて改めて戦争の恐ろしさを知ることができた。(海外参加者・女)
- ・海外参加者が初めて沖縄戦について知ったと言っていたことが意外だった。平和をつくるためのランク付けをしてどのグループも見たいけど理由が全然違ったのが面白かった。(国内参加者・女)



藍染体験②

【本日のプログラムにおいて、疑問点、自分自身の課題は見つかりましたか？】

- ・沖縄の伝統的な物産や民芸について他にどんなものがあるのか知りたい。(国内参加者・女)
- ・どうすれば平和になるか？という難しい議題で話し合い、小さな一つのグループでも意見が合わなかった。それが国と国の対立になると、どうすればいいのかなどの疑問が出た。(海外参加者・女)
- ・沖縄以外の国の人々は沖縄戦をみてどう思ったのかもっと知りたい。(国内参加者・女)

【自分自身が積極的に学び、グループの取り組みに参加できましたか？】

- ・今日は空いている時間に自分からみんなに呼びかけてお菓子パーティなどをした。海外参加者と仲良くなれて良かった。(国内参加者・男)
- ・英語だけでディスカッションもしてみたい。(国内参加者・女)
- ・平和について初めて実体験した。怖かったり気持ち悪くなったりしたが、グループで取り組んだ平和についてのまとめで、平和のありがたさを感じた。(国内参加者・女)

【ウチナーネットワークを担う一員としてどんなことをやっていきたいと思いましたか？】

- ・自分の意見をもつことと、他人の意見を受け入れるのも大切。(海外参加者・女)
- ・他国の友達を作り、お互いを理解できる人になりたい。平和のためにウチナーンチュとして自分ができる初めの一歩だと思う。(国内参加者・女)
- ・歴史を自分自身が知ること。そして、それを知らない人々へも伝えられる語学力、積極性が大切だと思う。(国内参加者・女)
- ・私は石垣島からひめゆりに初めて来ました。17歳の自分が戦争に駆り出されたらこんな悲惨な体験をしたのかと悲しくなりました。そして自分が今何をすればいいのか考える事ができました。大学生になってからも見学に来て、そのときに何を感じられるか、これからも学び続けていきたいと思います。(国内参加者・女)



ひめゆりでの学習を終えての感想

学習プログラム【六日目】8/9（金）

■六日目の概要

この旅で何を学び、感じたか、意見を出し合いながら発表作成

これまでの5日間で移民・伝統工芸・平和・社会・歴史・自然学習と盛り沢山の内容で学びを深めてきた参加者たち。毎日が充実していたものの、心身ともに少し疲れが見えてきた。6日目はこれまでの体験をじっくり振り返る時間を持った。

レビューシートなどをもとに、一日一日を振り返ってみると、体験からの学びや参加者との交流の中で、色んな影響を受けて自分自身の成長したり、変わっていったのがわかった。

それらをグループの中で共有し、最も大切にしたい「沖縄の宝」についてまとめ、明日の研修成果発表会でホームステイ先や関係者に向けて発信することになった。

組踊の練習もいよいよ大詰め

翌日にフェアウェルパーティでの披露を控え、空き時間を見つけては練習を重ねてきた組踊パフォーマンスもいよいよ仕上げの段階。

最後にもう一度TAOファクトリーのメンバーに指導を受け、舞台となる体育館で細かな手の動きや陣形を含め確認した。うだるような暑さの中、汗を流しながらも必死に講師についていくその姿は以前よりも何倍も逞しく見えた。あまりの難しさに最初は音を上げていた参加者も、今では音楽が流れると自然に体が動きだし、食事中でもリズムを口ずさんでいるほどだった。みんなで宿泊するのも本日が最後。翌日の準備が済んだ参加



大切にしたい沖縄の宝をポスターで表現

一日の主なプログラム

主な目的：これまでの学習の振り返り・まとめを行い、翌日の発表会に備える。

場所：JICA 沖縄国際センター

9:00 総合学習Ⅱ

13:00 総合学習Ⅲ

19:30 伝統芸能学習Ⅱ

者たちは、寝る時間も惜しいようで、宿泊施設にある談話室やカラオケルームに集まって談笑したり、歌ったり踊ったりと交流を深めていた。

その場にはすでに国境や言葉の壁はなく、同じルーツを持つウチナーンチュとしての大きな家族のように見えた。

一週間の主なプログラム

一日目 8/4（日）

- ・開講式/オリエンテーション
- ・ウェルカムパーティ

二日目 8/5（月）

- ・社会学習Ⅰ
- ・県知事表敬
- ・移民学習

三日目 8/6（火）

- ・歴史学習
- ・伝統芸能学習

■ 詳細

【総合学習Ⅱ】9:00～12:00

目的：ジュニアスタディを通して共に学んだことから「沖縄の宝」を探し、宝モノを残し、守っていくためにネットワークを活用し、共にできることを考える。

講師：沖縄 NGO センター 金城さつき氏
比嘉 加りナ氏

プログラム：

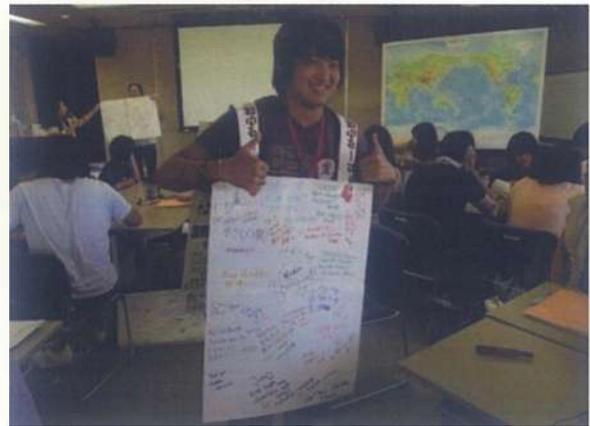
- ① アイスブレイク（あなたの良いところ）
- ② 身の回りの沖縄・海外ワーク
- ③ ウォークジュニアスタディで見つけた「宝モノ」

沖縄の宝とは何か？そしてそれを守るために自分たちに出来る事

本格的なワークショップに入る前に、アイスブレイクを兼ねて、お互いの長所をポスターの裏紙で作ったポンチョ（中南米の貫頭衣）に書き込むアクティビティをした。面と向かって褒め合うのは難しい事だが、背中に書くことで、認め合える＝意見の出やすい雰囲気を作った。チューターなどのスタッフも一緒に参加して、新鮮な気持ちを味わった。



互いの長所をポンチョに書き込むワーク



仲間からの沢山の褒め言葉をもらう

参加者は毎日プログラムの終了後にレビューシートを使ってその日の学びや自分自身の課題などを記入していた。それを基に振り返りを行い、この旅を通しての学びが自分にどんな影響を与えたのかをそれぞれグループの中で共有し合った。

そして今後も守っていききたい「沖縄の宝」とは何なのかを考え、それを関係者にも共有するための発表方法を考えた。グループの特徴に合わせてポスターや劇など表現方法は様々だった。その後、プレ発表会を行って、それぞれの改善点などを出し合い、明日の研修結果発表会に備えた。



沖縄の宝とは何か？（ウェビング）

四日目 8/7（水）

- ・自然学習
- ・総合学習Ⅰ
- ・キャンプファイヤー

五日目 8/8（木）

- ・社会学習Ⅱ
- ・平和学習

六日目 8/9（金）

- ・総合学習Ⅱ/Ⅲ
- ・研修成果発表準備

七日目 8/8（木）

- ・自然学習Ⅱ
- ・閉講式/フェアウェルパーティ

【総合学習Ⅲ】 13:00～17:00

目的：これまでの学びや気付きの中から最も伝えたいことをまとめ、研修発表会の準備をする。

講師：沖縄 NGO センター 金城さつき
比嘉 加リーナ

プログラム：

- ① 研修発表会準備
- ② 模擬発表会



模擬発表会の様子

翌日の研修発表会に向けて準備

自分たちは何を学び、何を大切にしていきたいのか、グループごとに意見もまとまってきた。そのまとめをしている最中、この旅も終わりが近づいていることを認識したのか、泣き出す参加者もいた。しっかりと学んできたことを周りにも伝えようと気を取り直してみな一所懸命取り組んでいた。



それぞれのプレゼンを見て改善点をあげる

【伝統芸能学習Ⅱ】 19:30 ~ 21:00

目的：組踊パフォーマンスの総仕上げ

講師：TAO ファクトリー 藏當慎也氏他

プログラム：

- ① 準備体操
- ② パート別練習
- ③ 全体練習



力強い男性パート練習

泣いても笑っても最後の練習

ツアー3日目から毎日稽古を重ねてきた、組踊パフォーマンスの練習も今日で最後。パート別の振り付けは大体覚えることが出来たようだった。しかしながら、それぞれのパートを組み合わせ一つの舞台にするのは更に一苦労が必要だった。

TAO ファクトリーの藏當氏に再び来ていただき、最後の総仕上げをした。最初の頃と顔つきも変わって見えた。



あてやかな女性パート練習

参加者の感想から【六日目】

【本日のプログラムで得たもの、学んだもの】

- ・一週間前に出会ったばかりだけど、UJS が終わってみんなと離れるのがとても寂しい。(海外参加者・女)
- ・UJS で学んだことで自分が成長したことを実感した。みんなの発表を聞いて、いろんなことを思い出し涙が出た。本当にみんなと離れるのがとても寂しい。(国内参加者・女)
- ・UJS の場のように異なる国々の人同士の交流が必要であることを実感し、沖縄の宝についても深く考えた。(海外参加者・女)
- ・今回の研修を振り返ると、どのプログラムも最高で沖縄の文化を学ばなければならないという結論に達した。(海外参加者・女)
- ・沖縄のアイデンティティ=宝など沢山の人の意見が聞けて良かった。大切なのはその宝を考えようとする「心」だと思った。(海外参加者・女)

【本日のプログラムにおいて、疑問点、自分自身の課題は見つかりましたか？】

- ・海外でどのように沖縄の文化を継承していくか。(海外参加者・女)
- ・「いちやりばちよーでー」の精神を広めるために自国で出来る事を考えた。(海外参加者・女)
- ・参加者のみんなと離れても、この絆を忘れずに仲良くしていきたい。(海外参加者・女)

【自分自身が積極的に学び、グループの取り組みに参加できましたか？】

- ・ワークショップでは、自分のことを改めて見直すことができた。また、グループで協力して、発表会のまとめを完成させた。
- ・私のグループでは私の国の言語も英語も話さなかったのでチューターを常時必要とし、ディスカッションが難しかった。まだ日本語がわからないので勉強したい。(海外参加者・女)
- ・明日の研修発表会でグループでまとめた意見や仲の良さを伝えたい。(海外参加者・女)

【ウチナーネットワークを担う一員としてどんなことをやっていきたいと思いましたか？】

- ・UJS が終わっても、みんなと連絡を取り合いたい。(海外参加者・女)
- ・ここで知り合ったウチナンチュとコンタクトを取り続け、沖縄の歴史・文化について学んでいく。前に進んでいくために。(海外参加者・女)
- ・県人会などの沖縄関係のイベントに参加する。今回の参加者と SNS でコミュニケーションを取り続ける。(海外参加者・女)
- ・移民した我々の祖先、そしてそのルーツを大切にしていきたい。(海外参加者・女)



研修を振り返りながら感極まる参加者

学習プログラム【七日目】8/10（土）

■七日目の概要

仲間の絆を糧に成長した姿を披露。

学習プログラム最終日の午前中は沖縄の誇る美ら海を思い切り満喫した。

学び尽くしだった参加者は心身ともにリフレッシュした様子で、午後からの研修報告会に向けてエネルギーを充填出来たようだ。

沖縄国際センターに戻り、着替え&昼食を済ませるともう研修成果発表会の時間となった。前日にまとめた研修の成果をグループごとにまとめ、一週間の間に生まれた「絆」の大切さを発表した。修了式ではジュニア大使認証状が授与され、この経験を生涯忘れることなく、沖縄と海外との懸け橋となる事を誓い合った。

一日の主なプログラム

目的：これまでの研修の成果を伝える。参加者の一生の思い出を作る。

場所：JICA 沖縄国際センター

9:00 自然学習Ⅱ

14:30 研修成果発表会

15:00 修了式

16:30 フェアウェルパーティ

そしてもう一つの集大成である組踊パフォーマンスの披露がフェアウェルパーティで行われた。直前には不安そうな面持ちも見られたが、衣装に腕を通すと表情が一変した。雄大に踊るその姿は、自信と誇りに溢れていた。



組踊パフォーマンス

一週間の主なプログラム

一日目 8/4（日）

- ・開講式/オリエンテーション
- ・ウェルカムパーティ

二日目 8/5（月）

- ・社会学習Ⅰ
- ・県知事表敬
- ・移民学習

三日目 8/6（火）

- ・歴史学習
- ・伝統芸能学習

■詳細

【自然学習Ⅱ】9:00~12:00

目的：沖縄の美しい自然を知る。参加者同士の交流を深める。

場所：西原キラキラビーチ



西原きらきらビーチにて

沖縄の美ら海を満喫、忘れられない思い出に

時間の関係上、イノー観察やビーチコーミングの出来る自然のビーチではなかったが、それでも海外参加者は透き通った海水と真っ白な砂浜に感動した様子で、各々泳いだり、砂遊びをしたりして楽しんだ。

ビーチサッカーではさすが南米の参加者と言わんばかりの活躍で、ブラジルやアルゼンチンの参加者がゴールを連発していた。

初めて海を見たというボリビアからの参加者は、「テレビやインターネットで知っていたものの、沖縄の海がこんなに素晴らしいものだとは思わなかった。この海を未来にも残すためにも環境問題についても一緒に考えていきたい」と述べ、自然保護の良い動機づけになったようだ。皆ではしゃぐ横で、少し



悲しい顔をしている海外女性参加者がいた。どうしたのか尋ねると、「この楽しい夏が終わってしまうと思うととても寂しい」とセンチメンタルな気分になっていたようだ。楽しい時間は刹那に過ぎてしまうが一生の思い出になったに違いない。

四日目 8/7 (水)

- ・自然学習
- ・総合学習Ⅰ
- ・キャンプファイヤー

五日目 8/8 (木)

- ・社会学習Ⅱ
- ・平和学習

六日目 8/9 (金)

- ・総合学習Ⅱ/Ⅲ(まとめ)
- ・研修成果発表準備

七日目 8/8 (木)

- ・自然学習Ⅱ
- ・閉講式/フェアウェルパーティー

【研修成果発表会 & 修了式】 14:30~15:30
 目的：研修の成果を発表し、ウチナーネットワークを担う次世代のリーダーとして自覚を養う。
 場所：JICA 沖縄国際センター 多目的室
 司会：交流推進課 渡嘉敷 礼
 プログラム：
 ① 研修成果発表会
 主催者挨拶 沖縄県知事公室参事監 古波蔵 健
 研修成果発表 参加者（6グループ毎）
 ② 修了式
 沖縄ジュニア大使認証授与 海外参加者
 修了証授与 県内参加者
 感謝状贈呈授与 青年リーダー



グループ 3 劇で UJS で連綿と続く沖縄の絆を表現



グループ 4 絵で仔チャバチョーデーのイベントを表現



グループ 5 ポスターで仔チャバチョーデーの心を表現



グループ 6 劇で海外と沖縄の絆を表現

沖縄と海外の交流の懸け橋へ

一週間の学習プログラムを通じて参加者は、何を学び、大切にしていきたいと感じたか？各グループでまとめた結果、そのほとんどがウチナーネットワークとしての「絆」や「いちやりばちョーデー」の精神だった。それらをそれぞれの表現方法で発表し、来場して頂いたホームステイ先や両親などの家族、学校の先生などの関係者へ伝えた。

修了証を受取る姿は一回り大きく見えた。



グループ 1 ポスターで世界に広がるウチナーネットワークを表現



グループ 2 ガンズで UJS で成長する参加者を表現



緊張の面持ちで参事監より認証状を受け取る

【フェアウェルパーティ】16:30 ~ 19:00

目的：UJSの全ての関係者に感謝の気持ちを伝え、最後の思い出となる時間を過ごす。

場所：JICA沖縄国際センター 体育館

司会：ボランティア（金城・並里）

プログラム：

開会の挨拶 沖縄県知事公室交流推進課

課長 照喜名 一

～参加者入場&パフォーマンス～

（協力TAO Factory）

乾杯の音頭 沖縄ペルー協会会長 比嘉 憲太郎

県内参加者からの挨拶 城間 愛里

海外参加者からの挨拶 比嘉 バネ ダブネ

～食事・懇談・余興～

- | | |
|-----------------|-------------------------------|
| 1. ダンス（ブラジル） | 金城 梨枝、当間 チミ
花城 光花留、城間 ちえみ |
| 2. ヒップホップダンス | 長崎 花菜美 |
| 3. ホイスパーカッション | ブーヌクリ 海セザル クリストウ |
| 4. タンゴ（アルゼンチン） | 我謝 マリア、比嘉 バネ
我謝 トドリコ アンドレス |
| 5. ホリビア伝統舞踊 | 津嘉山 朱里男、真榮城 茜 |
| 6. 島人ぬ宝合唱 | サキハラ リカルド、トカキ アンドレス
城間 愛里 |
| 7. スライドショー&送る言葉 | ボランティアその他有志
真榮城 駿、城間 ケチ チミ |
| 8. 閉会のご挨拶 | JOCA沖縄 佐藤 豊 |

感動のフィナーレ。贈る言葉はいってらっしゃい

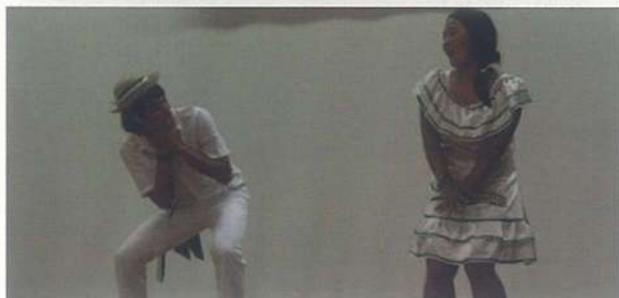
修了書及びジュニア大使認証状を受け取った参加者は、無事研修が終わった安堵感に浸るのもつかの間、フェアウェルパーティでの組踊パフォーマンスの準備に取り掛かった。最後のリハーサルを終えて、関係者の待つ体育館の舞台から颯爽と登場し、見事な演技を終えた時は会場中に響くほどの大きな歓声が上がっていた。



舞台の幕があがり、荘厳な雰囲気が始まる

沖縄県の照喜名課長やペルー協会の比嘉会長からは「参加者の顔つきが変わって成長した姿が見れた」との感想が出ていた。この事業の意義を再確認することが出来た。

それぞれの余興も賑やかに、自信に満ち溢れた表情で催され、最後は会場全体で「島人ぬ宝」の大合唱をした。そして一週間の思い出が詰まったスライドショーを見て、ほとんどの参加者が泣き出し、別れを惜しんでいた。



多国籍な余興の数々



ホームステイ先や支えてくれた関係者と

報告会 11/9 (土) @ 国際協力・交流フェスティバル

■報告会の概要

JICA 国際協力・交流フェスティバル で報告会

学習プログラムが終了して約 3 か月後、JICA 沖縄国際センターで開かれた国際協力・交流フェスティバルの開催会場で報告会を行った。

学習プログラムでの学びや気づきをトークセッションの形式で振り返り、移民かるたを使って一般来場者にも楽しみながら移民の歴史や UJS 事業を知ってもらう時間を設けた。



沖縄県知事公室長 又吉氏による開会挨拶

参加者に強い影響を与えた UJS

トークセッションでは、県内参加者を代表して、大久英美さんに登壇してもらい、今回のプログラムでの出会いが、その後の学生生活に強い影響と与え、学ぶ意欲が向上しているという、自分自身に与えた影響を語ってもらった。

海外参加者から代表して、花城光花留さんからビデオメッセージを通じて、UJS に参加したことで自分自身のアイデンティティが確立されて、生き方に影響を与えたことを会場へ伝えてもらった。

移民かるたの最中にも、その絵札に関するエピソードを各参加者が一人ずつ語り、一般来場者の方に、UJS でどのような学びがあったのかを伝える機会を設けた。

主なプログラム

目的：学習プログラムの振り返りをすると共に、一般県民にも UJS について知ってもらい、その意義や目的を共有する。

時間：13:30 ~ 15:00

場所：JICA 沖縄国際センター

人数：30 名（県内参加者 13 名、一般 13 名）

進行：JOCA 沖縄 我如古

13:30 主催者挨拶・事業概要説明

13:35 トークセッション

(ウチナーネットワークの大切さについて)

13:50 海外参加者のビデオメッセージ

14:00 移民かるた大会



トークセッションの様子

■ 詳細

【トークセッション】 13:35~13:50

目的：UJS 事業について、様々な立場の関係者の視点から振り返る。

登壇者：大久 英美（八重山高校）
金城さつき（沖縄 NGO センター）
比嘉 加リーナ（元県費留学生）

テーマ：

- ①ジュニスタで印象に残っているシーン
- ②自分自身にどう影響を与えたか
- ③言葉の壁
- ④平和への思い
- ⑤ジュニスタの宝モノ「ONCワークショップ」から」

言葉の壁を乗り越えた出会い

県内参加者の大久英美さんと、学習プログラムにて移民ワークショップなどを担当した ONC の金城さん、そして海外参加者の代弁者として元県費留学生であり、ボランティアとしてお手伝い頂いた比嘉さんの 3 名でトークセッションを行った。

県内・海外参加者共に言葉の壁を乗り越えながら友情を育んだ時、はじめて「いちやりばちよーでー」の意味を知ることが出来る事。その仲間が世界中に居ることを胸に、戦争のない世の中を沖縄から発信していきたいこと。そして UJS で沢山の出会いや学びがあることを周囲にも伝えていきたいなどの想いを伝えた。



トークセッションの様子 2

【移民かるた大会】 14:00~15:00

目的：移民かるたを通じて移民の歴史を知ると共に、UJS 事業の理解促進を図る。

進行：青年リーダー 眞榮城 駿

プログラム：

- ① 移民かるたの説明
- ② 絵札に関するEピート発表（県内参加者）
- ③ 優勝チーム表彰

県内参加者がホストとなって UJS での体験を伝える

海外参加者からのビデオメッセージの後、フェスティバルに来場している一般参加者も含めて、移民かるた大会を実施した。青年リーダーの眞榮城君が絵札を読み上げて、かるたを取った本人が裏面に記載されている移民の歴史について読み上げる形をとった。そしてその歴史に関する UJS でのエピソードを各テーブルに配置した県内参加者が発表し、かけがえのない学びや出会いがある事を伝えた。



海外参加者からのビデオメッセージ



自然・観光・食べ物・行事など

3.参加者感想文

(1)海外参加者



太田 メリッサ パウラ (14)
Ota Melissa Paula
レスブリッジ 沖縄文化協
会(カナダ)
特技：三線・空手・
エイサー



キブドール カヨ 司 (15)
Kibodeaux Kyle
Tsukasa
沖縄県人会アトラクタ
特技：
ハワイアン・ホーリソグ

①「UJS2013」

たったの1週間で、沖縄・海外の32名の若者が一つに団結しました。言葉や文化の違いを乗り越えることは大変でしたが、家族のように共に笑ったり泣いたりしました。このように世界中の人たちとの出会いは、異文化や沖縄文化をも学ぶ機会を与えてくれました。そしていかにウチナーネットワークが大切で、私たちの人生の様々な局面でプラスとなるかを改めて気づかされました。

このプログラムの初めの一週間、親戚と過ごしました。特に楽しかったのは本部町にある美ら海水族館へいったこと、お祭りでエイサーを見たことなどの体験です。2歳の時に会ったきりだった105歳になる曾祖母に会いに行くことができうれしかったです。

スタディツアーの間、多くの現代の名所や史跡を訪ね沖縄の文化・歴史について学びました。ネイチャーみらい館では、沖縄に住む様々な生物について学び、また、沖縄と自国のキャンプファイヤーと比べどんなものを体験しました。首里城を見て回った際は、古代の沖縄がどのように統制されていたか学びました。ひめゆりの塔では、戦時中、いかに人々が生き延びるため苦闘し、過酷であったか、新たな知識を得ることができました。西原きらきらビーチでは、常夏の沖縄を体感できるリラックスタイムをたのしみました。そこが、グループで訪れた最後の場所でしたが、ネガティブな意見は楽しい笑い声にかき消されていました。

私は初日のオープニングパーティとフェアウェルパーティでも緊張し不安でしたが、それは全く異なる感情でした。プログラムのはじめは、一週間知らない人と過ごすことが心配でしたが、最終日はもう二度とこの素晴らしい人たちと会えないんだと不安になりました。しかし、心配することはなかったのです。なぜなら今日この日まで、私たちはずっと連絡し続けていて、この繋がりは決して失われないのだということを今は知っているからです。

UJSは自分の想像以上に自分の人生に影響を与えました。沖縄の文化や伝統を守り続ける人たちとの繋がりを与えてくれました。スタッフ、参加者、家族のひとたち。スタディツアーの後の自分はプログラムが始まる前の自分とは別人です。なぜなら、自分の文化を心から受け入れはじめたからです。プログラムに参加する前は、ウチナンチュであるということがどういうことなのか、よくわからなかったのです。この素晴らしい旅のおかげで、自分の文化について学び、広めることが重要であることに気づきました。そうすれば、文化は色褪せることなく未来の世代にも続いていきます。

最後に、この驚くべきプログラムのため調整してください、沖縄県、スタッフ、ボランティアの方々へ感謝の意を表したいです。そして忘れがたい旅にしてくれた全ての参加者に。

②「UJSは一生続く」

私はアメリカ・ジョージアにあるイースト・コエタ・ハイスクールからの参加者です。UJSは驚くべき経験でした。到着した時から、皆がフレンドリーで親切でした。一週間どんな事をするのか不安でしたが、初日から楽しく刺激的で、革新的でした。次の日がくるのを待ちきれないほどで、その日が終わってしまうのが残念だったくらいです。

食事も素晴らしく、たくさんの種類から選べました。沖縄の文化、伝統を学び、学んだテーマを強化するためのグループ活動を行いました。朝から晩まで興味深い活動に参加しました。

色んなテーマをユニークな方法で学びました。訪問地では、沖縄文化の痕跡が見られ、アメリカと比べ多様性も見られました。大きな記念碑や様々な種類の食べ物に興味をひかれ、時間は飛ぶように過ぎ、気づくともう沖縄センターへ戻る時間になりました。

それから、ネイチャーみらい館を訪れました。その晩遅くTAOファクトリーがきて、私たちが最終日に踊ることになっているとても激しい踊りを見せてくれました。演舞は難しく、みんな自分の動きを仕上げようと一生懸命練習しました。翌日は筋肉痛がありましたが、カヌー体験をしました。水の上からはどこかしこに魚が見え、素晴らしい経験となりました。カヌーの後、マングローブ林を探索し、生態系を学び様々な種類の蟹を見ました。

毎日朝と晩に踊りの練習をするため、みんな朝食より少し早起きしました。まるでUJSプログラムが始まったばかりなのに、もう修了式にいるような感じでした。

踊りを間違えなくなかったので心配でしたが、踊った後はベストを尽くせてほっとしました。セレモニー後、着替えて、自分の家族のもとに戻るよう言われましたが、新しい友達にさよならを言うのはためらわれ、実際に帰るまでに数時間を要しました。

みんな感情的になっていて、多くのひとたちが泣いていました。プログラムは終わったんだと思いつつ、ホームステイに戻っても、UJSプログラムでの素晴らしい思い出を忘れることができませんでした。

驚くことに、帰りの那覇空港にはUJS参加者、スタッフがみんないて、もういちど会えたことが嬉しくなりません。沖縄を発つときには泣きそうになりましたが、プログラムの経験が私をもっと沖縄人のようにしてくれたと感じました。

今でも手紙やSNSを通して、プログラムの友人とは連絡を取っていて、自分の作った人生一度の友情を忘れられないでいます。UJSをけっして忘れることはないでしょう、そしてまたすぐにも沖縄に戻ってきたいです！



タイヌ マイケル 堀田 (15)
Tyus Michael Hotta
北米沖縄県人会
特技：
エイサー・合気道・
ボーリング



エステファニ さゆり 高良
仲程 (17)
Estefani Sayuri
Takara Nakahodo
沖縄県人会
特技：ダンス

③「沖縄についての外国人の見解」

空港についた瞬間から、帰国の飛行機に乗り込むまで、沖縄での時間は常に楽しく、心地よく、充実したものでした。UJSの一週間、私は毎日多くを学びました。私の短い沖縄体験では、沖縄はユートピアであるかのように感じられ、街は汚れておらずきれいで、人はいい人で、景色は素晴らしく、信じられないほど素晴らしかったです。

UJSのプログラムの間はゆっくりする時間もありませんでした。スタッフ、ボランティアそして参加者たち皆が楽しい時間を過ごせるよう積極的に参加しました。新聞ゲーム、踊りのレッスン、キャンプファイヤーのチーム対抗戦などの企画イベントから、カラオケや一緒に時間を過ごす、などの企画外の突発的なイベントまでカリキュラム以外のイベントも全員が参加し楽しみ、想像以上のものに感じられました。

JICAでの修了式では、佐藤さんが「一度逢えばみな兄弟」という沖縄の言葉を引用しました。私ははじめ、その引用句に対して懐疑的でしたが、自分の経験を思うとつじつまが合います。その引用句を知らないまま、ツアー中にそれを直に体験しました。沖縄についた時、私はどうやって話をしたらいいかわからず緊張していました。自分の変わった性格を受け入れてくれるかわからず、この島についてほとんど何も知らなかったから。

まもなく、それは心配することではないと分かりましたが。沖縄からの参加者たちは絶えず話しかけたり、気にかけてくれたりして、友達として私を熱心に受け入れてくれました。スタッフやボランティアは私たち全員の名前をすぐに覚えてくれ、古くからの友人のように接してくれました。信じられないくらいいい人たちで、気遣ってくれたので、その引用句は本当に納得できるものでした。沖縄は本当に兄弟の島です。

UJSは学習面でも充実していました。1週間の過程の中で、地理、歴史、建築、その他多くの集中講座がありました。自分の文化的背景について学ぶため沖縄に行きたいと思っていたので、期待外れで失望することはありませんでした。琉球王国の歴史、マングローブ湿地帯の地理とエコシステム、首里城の建築や歴史について学びました。UJSは私の求めていた自分の文化的背景の素晴らしい知識を与えてくれました。

UJSは素晴らしさは言葉で言い表せないほどです。学ぶ機会であっただけでなく、絆づくり、自身の成長など数多くの機会に恵まれました。沖縄の美しさはその地理上の理由だけではありません。沖縄で出会う人はそれまで会った人たちの中で一番フレンドリーではないでしょうか。景色は息をのむほどです。文化は信じられないほど豊かです。沖縄は素晴らしく、美しいパラダイスであり、永遠に記憶に残るほどの印象を与えてくれました。人生で一度の経験をさせてくれたことに、お礼を申し上げます。

④「UJSでの経験・学んだこと」

ウチナー・ジュニア・スタディー (UJS) というプログラムでは色々学んで、自分の成長に繋がりました。UJSのおかげで、オープンな人になりました。最初は恥ずかしがりやで、他の参加者とうまく行かなかったけど、彼らのサポート、そして交流アクティビティーのおかげでだんだん仲良くなっていきました。

各学習プログラム・講義は役に立ちました。残念ながら、幼いとき、沖縄について知りたくなくて、両親に日本語で話してもらいたくありませんでした。しかし、アイデンティティのワークショップでは、私の考えは「よくない」と気づかされました。これから、私のルーツ、沖縄についてもっと学ぼうと思っています。

第二次世界大戦の生存者の話を聞くことができ、すごくよかったと思います。その方は、平和のメッセージを伝えることは大事だと言いました。そうしないと、第二次世界大戦のような大規模な戦争が起きるおそれがあるからです。

このプログラムで学んだことを沖縄県系人やその他の皆に伝えたいと思います。沖縄の文化・食文化・歴史は面白いからです。皆に沖縄に興味を持つようになってもらえれば嬉しいです。

このプログラムでは沖縄のことだけでなく、他の国の文化について少し学べました。そして、沖縄の文化は他の国にどんな影響もたらしたのか、そして他の大陸への移民のことについても学びました。

このプログラムに参加させていただいて心から感謝しています。一生忘れられない経験で、自分の成長に繋がったと思います。私の沖縄への思いが変わりました。このプログラムで経験したことを、より沖縄について知るために他の人に伝えたいと思います。



津嘉山 朱里男 (16)
Tsukazan Jurio
ポリビア沖縄県人会
特技：
ポリビア伝統舞踏・
エイサー



真榮城 茜 (16)
Maeshiro Akane
ポリビア沖縄県人会
特技：
ポリビア伝統舞踏・
トランプット・エイサー

⑤ 「一つの夢を叶えました」

私の一つの夢は沖縄に行くことでしたが、チャンスがありませんでした。UJSというプログラムを知り、すぐに応募しました。結果を知って、すごく嬉しかったです。若いときに沖縄に行けると思っていなかったからです。

沖縄での生活はまるで別の世界で冒険しているような感じでした。おじさんと買い物をしたことを一生忘れません。ある面識のない女性の店員さんは、私の事を親戚・知り合いのように扱ってくれました。そのとき、「イチャリバチョーデー」の意味が分かりました。

そして、UJSの学習プログラムがはじまり、その一週間、沖縄の文化・歴史・習慣・料理について学びました。そして、ダイナミック琉球という武道とダンスを混ぜたような踊りも学びました。昔は「沖縄」じゃなくて「琉球」と呼ばれていたことが印象に残っています。

そして、きらきらビーチにも行きました。その砂は柔らかくて真っ白で、海は真っ青でした。料理に関して、ゴーヤーチャンプルー、ソーキそば、アシティピチなどは珍しい味でした。参加者やボランティアとの交流プログラムも一生忘れられません。私たちはウチナーンチュであることが分かったので、一生誇りに思います。UJSはユニークで他のプログラムと比較できない経験でした。

このプログラムに参加させてもらった沖縄県庁に感謝しています。夢を叶えました。そして、ホストファミリーとスタッフの皆さんにも感謝の気持ちでいっぱいです。来年・再来年の参加者も同じように忘れられない体験するために、このプログラムが続いたらと思います。

UJSは短かったけど、私にとって友情の始まりです。またいつかどこかで会えると思います。そのときまで「笑顔のまま」でいたいです。

これからの私の一つの目標は他の日系ポリビア人に沖縄の文化・僕の経験を伝えることです。そして、その若者たちにUJSを推薦することです。一生のかけがえのない経験です。

⑥ 「行ってきますでお別れ」

私はずっと夢にまで見た沖縄のUJSに参加する事ができました。プログラムの2ヶ月前から沖縄の事で頭が一杯で、自国紹介のためにポリビアの踊りの練習も一生懸命頑張りました。

そして待ちにまった当日、家族の見送りで出発し、ブラジルの空港で南米の参加者と合流し、出発から36時間後、無事沖縄に到着した時にはもう真夜中でした。ホームステイ先である親戚のおばあちゃんが迎えてくれて、その家に一週間お世話になり、いよいよUJSが始まりました。

一日目の初顔合わせは緊張しましたが、みんなとても優しく、面白い人達ですぐに仲良くなりました。その日のウェルカムパーティーでは色々な国の踊りで盛り上がり楽しかったです。

二日目は国際通りで地元の人々との交流や街の現状を間近で学ぶことができ、とても勉強になりました。その後は、沖縄県庁を表敬訪問しました。

三日目は首里城で琉球王国時代の歴史を学びました。あと、肝高の阿麻利のバックステージツアーを見学し、ダイナミック琉球という踊りを最終日の発表のために、みんなで練習しました。

四日目は、自然の中でマングローブ・カヌーを体験しました。ウチナーンチュネットワークの大切さを伝える活動をしているWYUAの皆さんにも会い、そこで、消えつつある肝心をもっと世界の若者達に伝えなきゃいけないと感じました。夜はバーベキュー&キャンプファイアーを囲んでみんなで歌い踊りました。

五日目は、こどもの国で沖縄伝統藍染を教えてもらい、手拭いを綺麗な藍色に染める事ができました。午後はひめゆりの塔で戦争時代を過ごした女性達の辛い体験を始めて知り、とても心がいたくなるのと同時に、辛みはずの仕事に励む信念に感動しました。

六日目は、いままでUJSでできた友達と一緒に過ごした日々を振り返り、まとめました。みんなと過ごす楽しい時間があと残り少ないことを考えると、とても悲しく辛い気持ちになりました。

最終日は西原きらきらビーチに行き、綺麗で透明の海だったので足元で魚が泳いでいるのも見る事ができて、とても感動しました。午後に、沖縄の宝「イチャリバチョーデー」をテーマに研修成果報告をしました。琉球時代に100年間戦争が無く、みんな家族、兄弟のように過ごしていた事を意味する言葉で、今その無くなりつつある精神を、一人一人が意識してどう広めていけばいいのかを考え、発表しました。そして私達参加者には修了証書が授与されました。さよならパーティーではまず、みんなで練習したダイナミック琉球をおどり、ポリビアで一生懸命練習したBRINCAUを披露しました。とても緊張しましたがうまく踊れました。そして、「島人ぬ宝」を泣きながら歌いました。空港ではたくさんの人の見送りを背に私達海外参加者は、『行ってきます』の一言をいい沖縄を出発しました。

私はこのツアーを通してウチナーンチュとして生きる喜びを知ることができ、海外に住む県系人たちにもっと沖縄の文化、歴史、自然の素晴らしさを伝えたいと思います。このようなすばらしい機会に参加させてもらい心から感謝しています。これからの私の人生において大きな一歩になる経験だと確信しています。

UJSに参加させてくれた、関係者の皆様に深く感謝しています。ニフェーデビル！GRACIAS!



田野 金城
 栞 梨枝 (16)
 Yara Rie Hatano
 Kaneshiro
 ブラジル沖縄県人会
 特技：ダンス・手芸工作



波花城 アナパウラ
 光花留 (15)
 Ana Paula Hikaru
 Hanashiro
 ブラジル沖縄県人会
 特技：ダンス・ピアノ

⑦「いちやりばちよーでー」

私は那覇市に住んでいるオジーの妹の家で四日間のホームステイをしました。親戚たちは、初めて会う私を歓迎してくれて、沖縄の料理を作ってくれたり、サンバを教えてくれたり、沖縄の観光地のほか、オジーの出身地である大宜味村にも連れてってくれました。初めていった大宜味村には多くのホテルが建っていて観光客も多く那覇で想像していたのとは少し違っていたけれど、そこはまだ緑が広がっている、とても落ち着いたところでした。那覇市にいたときには感じられなかった「平和さ」が感じられました。大宜味村のあちこちに行けなくて残念でしたが、おじいさんが住んでいた家にも行けたし、彼のもう一人の妹にも会うことができたので、オジーの故郷へ行けただけでも本当によかったです。次の機会には必ず、オジーと一緒にいきたいと思いました。

ホームステイから四日後、JICA沖縄国際センターにてUJSのプログラムが始まりました。一週間という短い期間の間、私は沖縄の歴史や伝統芸能、移民の歴史などを学んだり、藍染め体験をしたり、いろんなことをしました。

プログラムの期間中は参加者との間で言葉の壁を感じた時もありました。それでも私たちはお互いの考えや思っていることをシェアするためにジェスチャーを交えながら説明したり、英語ができる子の力をかりたりしながら、ウチナンチュアイデンティティについてや、いちやりばちよーでーについて意見交換をしました。以前まではそのことわざを知らなかったけど、このUJSで私はその意味を知り、そして、アルゼンチンへ行って今回のUJSと一緒に参加した3人（ヴァネッサ、ロリー、ロドリ）と再会したときに、沖縄で私たちが話していたいちやりばちよーでーというのはこういうことだったのだな、とそのことわざの意味を実感しました。参加者のみんなと一緒にアクティビティに取り組んだ間、違う国に住んでいても違う言語を話しても、それでも私たちは世界中に移民していったウチナンチュの子孫なのだなど改めて気づかされました。このUJSによって私たちウチナンチュの子孫との間にまた新しい絆（UJSファミリー）が生まれました。これから先も、祖先たちが築いてきた沖縄の文化、そして、伝えてきた伝統芸能を今度は未来のウチナーネットワークを担う私たちが引き継ぎながらその絆をもっと深めていければいいなと思います。

沖縄での一日一日は、ハードスケジュールで少し大変だったけど、UJSファミリーと過ごした一週間は楽しかったです。私はこの事業に参加してから沖縄がもっと好きになりました。これからの世界のウチナーネットワークの発展に貢献しようという気持ちも前より高まりました。沖縄でお世話になった方々やこの素晴らしい機会を得られたことに本当に感謝しています。

⑧「人生をかえた沖縄研修」

ジュニアスタディーツアーが終了し、一ヶ月と少し経った今、この経験を思い返してみても、過去の自分とは何か違うものに気がつきました。

何週間も前から不安で仕方なく、このツアーがどんなものになるか、どう行動したら良いか、何があるのか。色んな事で頭が埋め尽くされ、眠る寸前までずっと考え込んでいました。

ツアーが近付くにつれて、フェイスブックに写真がアップされる様になり、スタッフの方々や県内参加者の皆さんの姿を初めて目にしました。

アイデアを出し合った様子が分かる写真や、真剣に話し合っている姿など、毎日の様にフェイスブックの写真を眺めていました。そこでの更新情報で県内参加者の皆さんが、まだ会った事もない私達のためにどうやって沖縄を伝えれば良いかを考えている姿に驚き、そして嬉しく思いました。

研修が始まり、最初は海外参加者とのみ話していましたが、グループでの話し合い、ウェルカムパーティーなどを通して、色々な人と話す様になり、同時にすぐに友達になれる空気を作ってくれるスタッフさんや、随分前から計画を立ててくれた参加者の皆さんの事が頭に浮かび、感謝の気持ちでいっぱいになりました。

過ぎ去っていく日々が非常に早く、寝る時間も惜しい程でした。歴史について全く分からなかった事を学び、初めて藍染を体験し、アイデンティティについても、他の方々と意見を共有したり、これ程素敵な一週間は無かったと思います。

こうして勉強出来る機会は皆が皆得られるものではないので、その素晴らしかった一週間、そして一日一日に感謝しています。これからは、この一週間で学んだ全てを、周りの人や世界中の人に共有出来るような場所を作り、沖縄の素晴らしさと戦争の辛さ、人々の暖かさ、素敵な土地など、数えきれない素晴らしさを、出来るだけ多くの人に伝えていきたいです。



当間 ゲンジン
 村ノネ チェミ (16)
 Rosane Thiemi Toma
 Gundim
 カンポ グランデ 沖縄県人会
 特技：ダンス・折り紙



サキハラ タイラ リカルド (17)
 SakiharaTaira
 Ricardo
 ペルー沖縄県人会
 特技：ギター・三線・
 楽器演奏

⑨ 「UJS2013」

今回が初めての海外だった。今までにない新しい経験で、また初めて沖縄に行くため緊張していた。ずっと日本に行きたかったので、このチャンスを本当に楽しみにしていた。やっと夢が叶った。

ブラジルにいる家族が普段連絡を取っていない沖縄の親戚のことを知ることができて良かった。また、首里城、きらきらビーチ等のすばらしいところに行って、沖縄の文化や習慣を勉強できた。本で読んだことを自分の目で見ることは刺激的で、実際に目にするのと現実味を帯びているかのよう。

参加者の間でいろいろな言語が話されていた。私の日本語は下手だったが、新しい友達ができさまざまな方法で交流できた。(私の母語はポルトガル語。英語は少しできるけど、コミュニケーションはほとんどジェスチャーだった)。暖かい歓迎はうれしく、ウチナーンチュが大好きになった。私が何かを理解するのに時間がかかっても、皆とても理解があり辛抱強かった。

ウチナーンチュとしてのアイデンティティについてちょっとわからないことがある。私の県人会、カンポグランデの若者は、通常県人会の活動には参加しない。それに、ウチナーンチュの歴史にも、日本語にも、興味がなさそう。少しずつ変わろうとはしているけれど、UJS2013に参加している間、ブラジル人として、日系人として、ウチナーンチュとしてのアイデンティティや自分の原点について考えさせられた。今まで考えたことがなかったのでもよかった。このテーマについて、他の参加者の感想も聞けてよかった。

唯一残念だったのは、自分たちがやりたいこと全てをやる時間が足りなかったことだ。たった一週間で全てのスケジュールをこなす、同時にお互いを知り、沖縄というすばらしい場所を理解するには時間が少なかった。もう一度皆と会って時間を過ごしたい。

プロジェクトの関係者の皆様に本当に感謝します。このプロジェクトのおかげで、私は成長し、学び、得るものがたくさんありました。参加者一人一人から色々なことを勉強できた。リーダー、ボランティア、スタッフの皆様と一緒に頑張ってくれたおかげでプログラムは成功したと思います。

⑩ 「UJS」での印象

予想以上に素晴らしいプログラムであり、また県内と海外参加者の交流ができてよかったです。このプログラムのおかげで沖縄人と世界のウチナーンチュとの絆が深まったと思います。

各学習は面白く、ウチナーの文化を深く学ぶことができました。私が好きなアクティビティーは「アイデンティティのワークショップ」と「ポンチョス」でした。海外参加者はより一丸になったと思います。

プログラムが始まる前は、県内と海外という2つのグループに分かれるのではないかと不安でしたが、参加者全員は一つのグループとしてプログラム内容を共有することができました。プログラムを組み立ててくれた渡嘉敷さんと我如古さんのおかげで、プログラムは時間通りに行われ、また私たちの面倒をしっかりと見てくださいました。

ダイナミック琉球という現代版組踊りを通して沖縄の文化の一つを学んで国へ持ち帰ることができ、さらに勝連で肝高の阿麻和利を見れたのも感動的でした。(リハーサルだったのに)

ひめゆりを見学して悲しくなりましたが、ビデオ鑑賞などを通して、先祖の生活について理解ができました。また、他の国のウチナーンチュとペルーの留学生をより知るという意味で、県費留学生・研修生と交流できてよかったです。

沖縄移民のワークショップでも色々考えさせられましたし、カヌー・マングローブ体験は面白く、沖縄の自然をより知れるなど、書ききれないくらい素晴らしい時間を過ごせました。

最後に、県庁の方々に感謝します。今回、UJSに応募するのは三回目でしたが、UJSのおかげで先祖の歴史・故郷をより知ることができました。ニフェー・デービル

再会できたらいいなと思っています。その日が早く来ますように。

沖縄の皆さん、きっと2019年に会いましょう！



トカシキ クニガミ アンドレ (17)
Tokashiki Kunigami
Andres
ペルー沖縄県人会
エイサー・三線・楽器演奏



我謝 マリア カリーナ (19)
Gaja Maria Carouna
アルゼンチン 在亜
沖縄県人連合会
タンゴ

⑪「沖縄は家族」

私は沖縄県系4世で、ペルーのリマ出身です。UJSはとても印象的でした。まずは、沖縄県庁、主催者とスタッフの皆さんに感謝を言いたいです。皆さんが一生懸命にやってくれたおかげで、いいプログラムができたと思います。ペルー沖縄県人会そして、ホームステイで我が家にいるような心地にさせていただいた親戚にも感謝しています。

UJSに参加するのは私の夢でした。子供のときから、先祖から受け継いだ歴史と文化が好きで、ペルー沖縄県人会のイベントに積極的に参加していました。特に、三線・エイサー・太鼓・沖縄舞踊が大好きです。なので、合格したと分った時はすごく嬉しかったです。ただ、日本語が苦手で面識がない親戚や日本人の方たちと1週間共に過ごすことが不安でした。その悩みを抱えながらペルーを出発しました。

飛行機に乗って30時間後、南米の参加者と一緒に、沖縄に到着しました。写真でしか知らなかった家族から暖かく歓迎してくれました。幸いにも親戚は多少は英語が話せて、何とかお互いにコミュニケーションを取れました。短期間で、家族の一人として我が家にいるような気分にしてくれた家族には感謝しています。

UJSの初日、ウェルカムパーティが行われ、県内と海外の参加者は色々なパフォーマンスを見せました。最初は言葉の壁があり、他言語の参加者とコミュニケーションを取るのが難しかったのですが、スタッフの皆さんの行った色々な交流企画のおかげで、私たちの絆が深まり仲良くなれました。UJSでは沖縄の歴史・文化、ペルーを始め各国への移民の歴史などについて学びました。そして、他の参加者と経験・体験についてお互いに分かち合いながら、アイデンティティについて考えさせられました。忘れられないのはキャンプファイアー、ビーチ、カラオケの夜、賢也くんの部屋で遅くまで過ごしたこと、そしてバスで歌って我如古さんを眠らせなかったことです。

好きなプログラムは肝高の阿麻和利バックステージツアーでした。言葉はまったく分からないのに、演者の顔の表情とエネルギーを注いだダンス・歌に感動しました。ダイナミック琉球という組踊りの練習も楽しく、おかげで沖縄芸術への情熱が膨らみました。ペルーでも一生懸命努力して、大勢のペルー人にこの素晴らしい沖縄芸術を見せたいです。

別れの時に、悲しい「さようなら」ではなくて、「また」と言いました。また沖縄に行って、友達と再会する日を楽しみにしています。

改めて、沖縄県庁・UJSと関わった皆さんに感謝を言いたいです。皆さんのおかげで、このプログラムは忘れられない経験でした。

NIFEE DEBIRU! ¡Muchas gracias!

⑫「UJSで経験した・学んだこと」

「アルゼンチンの代表として、ウチナージュニアースタディー(UJS)に参加する」と知らされたとき、様々な気持ちを感じるようになりました。様々な国から参加するウチナーの若者たちと過ごすのがチャレンジでいいモチベーションになりました。また、祖父母の故郷へ行くのが現実になり嬉しかったです。

旅行の準備をしていたときから、プログラムの目的が果たされていたと思います。アルゼンチンのタンゴを見せるために、比嘉・バネサさんと我謝・ロドリゴ君に会いました。このプログラムで初めての友達でした。

沖縄に到着して、父方の祖母ときよみおばさんに会って、私はウチナーンチュであることを実感しました。私の頭の中では、祖母に歌ってもらった沖縄民謡が流れ、祖父母と両親に話してもらった沖縄での経験を思い出しました。

きれいな青い海、そして、素晴らしい緑の植物に囲まれながら、世界のウチナーンチュの若者たちと過ごすことができました。皆さんと共通点もあって、相違点もありました。沖縄にいる間、自分の本当のアイデンティティを見つけることができましたと信じています。

そして、様々なところを回りました。ひめゆり平和祈念資料館を訪問して、第二次世界大戦の歴史について学んだり、金武ネイチャーみらい・子供の国に行って沖縄の自然について学習したり、肝高の阿麻和利バックステージツアーで沖縄の文化・伝統芸術について学びました。アルゼンチンに帰って日常生活に戻りましたが、ウチナーンチュの子孫である若者たちに「イチャリパチョーデ」と「チムグルル」の気持ちを教えるつもりです。

最後に、沖縄県庁、プログラム主催者、アルゼンチンの沖縄センターの皆様、そして、素晴らしいUJSに参加した皆様に心から感謝しています。



比嘉 バネサ ダフネ (18)
Higa Vanesa Dafne
在亜沖縄県人連合会
特技：バレエ・
アルゼンチンタンゴ



我謝 トドリゴ アンドレ (18)
Gaja Rodrigo Andres
在亜沖縄県人連合会
特技：タンゴ

⑬ 「UJSで経験した・学んだこと」

UJSを一言で言うと、自己発見と反省でした。その冒険は行動にでること、未知へのチャレンジから始まりました。勇気を振り絞って面接に行き、アルゼンチンの裏側にある沖縄に行けると知らされたとき、本当に驚きました。

私にとって、この異文化への旅は最初から最後まで夢のように貴重な経験でした。当初は想像も出来ませんでした。沖繩に着いたら大歓迎され、親戚に温かいおもてなしを受けて、子供の頃から知っているような感じでした。沖繩文化のベースとなっているのは沖繩人の心の温かさ・他人への尊敬です。私のおじさんたちは、周りの気持ちをよく理解していました。

沖繩と言えば、「努力」「献身」という言葉が思い浮かびます。どんな小さなことでも、一生懸命にやろうという気持ちがすごいです。その考え・想いは、他の人にも伝わると思います。そして、大人たちのエネルギーを感じて、時間を最大限に使うという考えが伝わりました。おじさんたちは毎日朝早く起きて、一日中色々なことをしたからです。彼らの姿を見て、「彼らができるなら私もできる」と考えるようになりました。沖繩の歴史を通してどのように発展してきたかを理解すると、目の前にあるものをより大事にしたいくなります。沖繩は大きな被害を受けたのに、ここまで復興することができ感心します。

肝高の阿麻和利バックステージツアーは印象に残りました。若者たちによるパッションのこもったダンス・歌・パフォーマンスを見て感動しました。彼らの顔の表情を一生忘れません。会話していないのに、いたいことが伝わったからです。

UJSでは皆が偏見なく話を聞いてくれたので、私の意見・アイデアを自由に伝えることができました。UJSの素晴らしい点は、沖繩の文化が失われないように若者たちが悩み・意見・反省を伝える時間があることです。

これから、私たちの役割は学んだことを友達に伝えることです。遠いアルゼンチンに住み、習慣・言葉が違うため、次世代にウチナー文化を受け継ぐのは難しいです。だんだんその文化が失われていきます。沖繩にいる間、大事なものが何なのか気付くことができました。沖繩人の知っていること、経験したことを同じように知り経験することで、本当のルーツを分かるようになります。そのルーツ・文化を保つのが大事です。

二週間で築いた絆・友情により、UJSに参加した友人とお互いに連絡を取り続けられるのが嬉しいです。一生忘れられない思い出を作れました。沖繩だけではなく、他の国についても学ぶこともできました。お互いに言いたいことが通じて、言葉は壁じゃなかったと思います。スタッフ・ボランティア・参加者のおかげで、外国人であることを全く感じることなく学び楽しみました。なので、別れのときとても辛かったです。

私にとって、このプログラムは転機でした。自分のアイデンティティについて考えるようになって、「アルゼンチン」「ウチナーンチュ」という二つの文化を持っていることが分かり、もっと勉強したいというモチベーションが生まれました。また沖繩に行きたいので、「さようなら」じゃなくて「いってきます」と言います。

⑭ 「Uchina Junior Study 2013」

目標を達成するために、悩み・どきどきしながら飛行機に乗りました。なぜなら、何が起きるのかまったく分かっていなかったからです。

しかし沖繩に到着すると、親戚の大歓迎を受け、各参加者はホームステイ先に向かいました。ホームステイは楽しくて、本当に愛されていたと感じました。様々なところ（美ら海、ひめゆり平和祈念資料館、国際通り、おきなわワールド、スーパー、レストランなど）へ行くことで、沖繩をより知るようになりました。私にとって、ホームステイ先の家族と過ごすのはチャレンジでした。私の日本語のレベルが低いからです。しかし、家族と一緒に過ごす中で沖繩の伝統・習慣等が分かるようになり感謝しています。また、自国（アルゼンチン）と沖繩の様々な相違点を知り驚きました。例えば挨拶、昼ごはんでのテーブルの座り方・食器の持ち方、生活、娯楽、食文化などです。

印象に残ったのは、沖繩にいる間、周りの人が私を沖繩人として接して、自分が沖繩人であると感じたことです。沖繩人（店員さん、モノレールの係員、歩道者など）は私の疑問に丁寧に対応してくれ、外国人への対応が良いと感じました。

そして、学習プログラムでは、参加者やボランティアの皆さんとの交流を通じて、沖繩文化が存在する国々について学びました。初日は、県内と海外の参加者の言葉の壁を感じました。それでも、スペイン語・英語を使って他の参加者と意見・アイデアを交わし、また様々なワークショップ・アクティビティーを通して、私の沖繩に関する知識（移民の歴史、沖繩の自然、各国にある県人会、琉球の歴史、伝統芸術、WYUA、豆腐の作り方、ひめゆり平和祈念資料館など）が深まりました。金武ネイチャーみらい館では、色々なアクティビティー（キャンプファイアー、ゲーム、カヌー体験など）を行い、県内・海外参加者が4・5人グループで一つの部屋に泊まって話し合うことにより、私たちは丸一となれたと思います。

そして、イチャリパチョーデー、チムグクルの意味が分かった気がします。最終日をお迎えるのはあつという間で、本当に帰りたいありませんでした。別れのとき、私たちは抱き合いながら泣きました。

このプログラムに参加させていただき、沖繩県庁・参加者・スタッフ・ボランティアの皆さんに心から感謝しています。皆さんのおかげで最高なプログラムとなりました。私にとって、忘れられない素晴らしい経験でした。アルゼンチンでは、沖繩の文化を広めるつもりです。

出発する時に決めた目標を達成できたと思います。それは、ウチナーンチュとしてのアイデンティティを見つけ、沖繩の歴史を知ることによって沖繩との繋がりが分かるようになったこと、他の国の人と仲良くなったこと、そして、親戚に出会ったことでした。



アブデルカデル オトレイ
 フェリシテ ルイズ (15)
 AbdelKader
 Felicite, Louise
 ニューカレドニア沖縄日系人会
 特技：バスケ



城間 けつちえ (24)
 Shiroma Tiemi
 ブラジル カンボ グランテ
 沖縄県人会
 特技：ダンス・エイサー・
 三線

⑮ 「UJSで経験した・学んだこと」

私は沖縄系ニューカレドニア人です。沖縄にホームステイをして、ほかの県系人に出会ったことは私にとって素晴らしい体験でした。

ニューカレドニアでまなべないことをここで学ぶことができました。今、沖縄は日本の一部かもしれませんが沖縄には独特な文化や言語があります。例えば、ハイサイ、ニヘーデービル、ユタシクウニゲーサピラなどです。このような言語と共に琉球王朝時代の歴史なども学ぶことが出来ました。

この一週間、すごく良いプログラムだったのですが母国語がフランス語なのですごく苦勞しました。なので、時々さびしさを感じることもありました。

しかし、思い出すのはいい思い出ばかりです。沖縄県知事をはじめとする、スタッフやボランティアのみなさま、このプログラムをサポートしてくれた皆様に感謝したいです。

⑯ 「青年リーダーとして参加して」

リーダーとして参加した2013年のスタディーツアーは、とても素晴らしい経験になりました。2006年に参加したときに学んだ歴史、文化、習慣そして伝統をもう一度学ぶ機会になりました。今回のイベントでは、リーダーとして皆と協力しながら、参加者が沖縄で素晴らしい時間を過ごせるようお手伝いをする事ができました。

沖縄では、友達や親戚ともう一度会うことができ、また他の友達を作ることができました。皆暖かく歓迎してくれました。この友情の絆をずっと大切にしたいと思います。このプログラムを通して、世界中の沖縄系移民に関する勉強会、沖縄（琉球）の歴史と文化、民話、芸術、習慣、沖縄の人々が現在も行っている行事、平和を守る方法など、人生における大切なことを学びました。

また、国際通り、未来館、首里城、ひめゆりの塔、きらきらビーチなどを周り、そこですごした時間は忘れることができません。

リーダーとして、沖縄の習慣と文化を伝えるために参加者を手伝うことが目的でしたが、それを私ができたとしたら嬉しく思います。

海外青年リーダーとして参加する事ができ、このプログラム、ウチナージュニアスタディの関係者、特に 沖縄県の皆さんに心から感謝しています。帰国後は、うちなーんちゅコミュニティのために2013年のツアーで学んだことを伝えお返しをしたいと思います。

二度目の沖縄は、とても楽しく、いい勉強になりました。

マタヤサイ。

(2) 県内参加者



仲間 綺 (14)
Aya Nakama
知念中学校
特技：チェロ・ピアノ・
バドミントン

①「UJSを通して」

私は、うちなージュニアスタディに参加し、得たことが数多くありました。その中でも、大きく上げて三つあります。

まず一つ目は、言語についてです。海外参加者の方々は、それぞれ違う国の言語を話すけれど、ジェスチャーを交えて、国の文化や学校のことなどを伝え合いました。言語が違う人同士でもいろいろな表現を使って、意思を伝え合うことができると知りました。また、今まで英語以外の言語を耳にする機会はあまりなかったのに、慣れるのに苦労したけれど、視野を広げる良い経験になりました。

そして二つ目は、沖縄についてです。私は、学校で沖縄のことを学んできて、少しは理解しているつもりでした。けれど、海外参加者の方々は私よりも、沖縄のことについて詳しいところがあり驚きました。今まで自分が住んでいる沖縄のことをそこまで深く考えていなかったけれど、海外参加者と共にプログラムに参加し、前よりも沖縄の文化や歴史、自然などを好きになりました。移民の歴史や伝統文化を移民から、藍染め体験を通して学び、これからさらに沖縄のことを知って、周りの人や海外の人たちに発信していけたらと思います。

それから三つ目は、スピーチについてです。初日のプレゼンやプログラム中の周りの人の発表を聞き、発表をするしっかりとした姿勢や考えのまとまり、スピーチの上手さに驚かされました。私も見習って、自分の意思をまとめて言えるように努力したいと思います。

うちなージュニアスタディに参加し、沢山の人の出会えたことが私にとって掛け替えのない宝物になりました。これからも、連絡を取り合い、うちなーネットワークを繋げていきたいです。



仲間 妃奈 (13)
Hina Nakama
浦西中学校
特技：バドミントン

②「UJSに参加して」

UJSは、私を大きく成長させてくれました。両親をはじめ先生や友達から「ひーな一変わったね。なんかすごくなった気がする。」と言われるようになりました。そのことは、私自身も自分が大きく成長していることを強く感じました。

私は、UJSに参加するまで沖縄の歴史や自然、文化、伝統について、自分が生まれ育ったふるさとであるにもかかわらず全く知りませんでした。しかし、たくさんのプログラムを通して沖縄のことを学んだことで、自分が“ウチナーンチュ”としての誇りをこれまで以上に持つことができ、更に、将来ふるさと沖縄のために何ができるか、ウチナーネットワークをどのように世界へ広げていくかなど考えるようになりました。

移民学習では、海外へ渡った一世の方の苦労は言葉では言い表せないものだと感じました。その苦労が実り今では、ボリビアにもう一つの「オキナワ」があって、世界にはたくさんの沖縄県系人がいることを初めて知りとても驚きました。

また、アイデンティティについての学習では、海外参加者が「自分が何人かわからない。」と話していたことが心に残り、私はどういう人間なのか、周りにどう影響を与えているなど、初めて自分自身について深く考えることができました。

UJSに参加する前は海外参加者とうまくやっていけるだろうかと不安な面もありましたが、ずっと一緒にいるうちに最初の不安は吹き飛び、最終日には、「離れたくない。」と思うようになりました。最高の宝ができました。

私は、UJSに参加して、将来「通訳」になりたいという夢ができました。ウチナーンチュとしての誇りを持ち、ふるさと“沖縄”について海外で伝えて行きたいと思います。

UJSは、私にとって大きな転機となりました。UJSで学んだ多くのことを生かして将来に向かって頑張っていきたいと思いません。



岸本 妃南子 (13)
Hinako Kishimoto
普天間中学校
特技：ピアノ・習字・
そろばん・バドミントン



長崎 花菜美 (17)
Kanami Nagasaki
那覇西高校
特技：ヒップホップ・
空手

③ 「UJSに参加しての感想」

私は参加する前までは正直不安ばかりだったし、あまり楽しめなさそうだと思っていました。それに、私は少し人見知りだし、自分から海外の方に話しかけきれなさそうだったのでどうしようと思っていました。だけど、参加してみて本当にためになることばかりで、とても楽しかったです。

このジュニアスタディーを支えて下さるスタッフの皆さんも優しい人達ばかりで、参加している人もいい人ばかりで、本当にこのプログラムに参加できて良かったです。私は他の国のこととかに興味があって、知りたいなと思っていたので、このプログラムに参加して海外の方と交流することができ、貴重な体験ができて嬉しかったです。

また、海外のことだけでなく、今まで知らなかった沖縄のことを詳しく知ることができました。やっぱり、国際交流においても、地元を知ることは大切だと改めて感じました。このプログラムでは、海外参加者の沖縄に対する強い思いも感じました。そして、これからの海外との絆も深めることができたし、沖縄のことをもっと広めていきたいです。

また、参加してみて、自分自身も大きく変わった気がします。私は、人前が出るのが苦手で、周りの人と違うところがあると不安になっていました。しかし、今では、人はみんな違うのが当たり前だということが分かって、自分に自信を持てるようになり、ちゃんと個性を大事にしていこうという気持ちになれました。そういう面でも、参加できて良かったなと思いました。

私は、この経験を生かして、また他の事にもどんどんチャレンジして、周りの人にも広めていけるように頑張りたいと思います。1週間本当にありがとうございました。

④ 「世界中に家族を作る」

私はウチナージュニアスタディー事業に参加して、自分の語学力やほかの国々の人たちとの対話力を知ることができました。また、英語圏外の南米の学生と交流することで、英語以外の語学に興味を持つことができました。私は参加中に食べたことのないお菓子や食材を食べたりその国のダンスを踊ることで、異文化理解を深められるきっかけとなると同時に、自分のコミュニケーション能力を知ることができました。これは語学を学びたい私にとってとても重要なことだと思います。

私はこの事業に参加できたことでいくつか目標ができました。一つは、来年の若者ウチナーンチュ大会に参加すること、もう一つは、スペイン語を話せるようになることです。

というわけで私は事業が終わってからスペイン語の勉強をしています。この体験と学習を活かして将来、南米に行って自分の力で事業に参加した海外メンバーに会いに行きたいです。

そして、一番うれしかったことは、沖縄だけに限らず、色々な国に人脈を広げられたことです。私は小さいころから世界中に家族を作るのが夢でもあったので、それに一歩近づけたことに本当に感激し、この事業に参加してよかったなと思いました。

また、ウチナーンチュとしての誇りを持つことができ、最高の思い出にもなりました。

これからウチナーネットワークを広げる一人の若者として活躍したいです。



佐和田 梢 (16)
Sawada Kozue
向陽高校
特技：エイサー・
ピアノ



山川 賢也 (16)
Kenya Yamakawa
向陽高校
特技：エイサー・
バレエ

⑤ 「UJSに参加しての感想」

ジュニアスタディーに参加して一番感じたことは、住む場所や言葉が違ってもウチナーンチュはやっぱりウチナーンチュなんだ、ということです。

この事業にさんかするまで、私は、移民についての知識や経験はほとんどなく、移民とは何か、を調べることからはじめました。そして、海外に住むウチナーンチュのことを知り

ました。しかしそれと同時に、差別や偏見に苦しんだ彼らの過去も知りました。自分が生まれ育ったこの沖縄が大好きな私は、彼らにも「自分のルーツが沖縄にある」ということを誇りに思ってもらいたくて、そのお手伝いができればと思い、このジュニアスタディーに応募しました。

しかし、その思いは、海外からの参加者のみんなと交流していく中で、次第に薄れていきました。エイサーやうちなーぐちが大好きな彼らは、もうすでに、自分のルーツが沖縄にあることを誇りに思い、沖縄を母国と同じくらい愛しているように見えたからです。

沖縄に住む私たちよりも、沖縄に詳しくあったりして、びっくりしたと同時に、自分が少し恥ずかしくなりました。この交流を通して、自分のアイデンティティーやルーツについて深く考える時間も増えました。

ジュニアスタディー事業のようなプログラムは、これからも継続して行なうべきだと思います。次回は、私は、この事業に参加する次の人たちの手助けができる、ボランティアスタッフとして参加し、私のようにいい体験を多くの人たちにしてもらいたいです。

⑥ 「UJSに参加して」

私が今回このウチナジュニアスタディーに参加した理由はこの沖縄の事をもっと知りたいと思ったし、海外のうちなーんちゅってどんな人達なんだろう。と疑問を持っていたからです。

ジュニア一日目では、まず顔合わせなどがありました。あの頃はみんな恥ずかしがっていて、県内参加者、海外参加者別々で分かれていました。しかし、日が過ぎていくうちに、私は積極的に海外参加者と関わるようになり、ジュニア最後の日には、本当に別れが辛かったです。みんなで夜遅くまで練習した阿麻和利のダンスや、カヌー体験、みんなで行った首里城、ほかにもたくさん思い出があります。ひとつひとつすべてが楽しかったです。みんなで、私の部屋で夜更かししてお菓子パーティしたことが一番楽しかったです。本当に最高の日々でした。

また、参加して気付いたことは、最初のうちは言葉の壁を感じ、あまり積極的に話すことができなかったのですが、話してみると私の英語を頑張って理解してくれたり、ジェスチャーで伝えることもできました。お互い普段話す言葉は違っても、伝えたいという思いが一番大切なんだな。と気付きました。

ジュニアスタディーを通して、沖縄の事が今よりもっと大好きになったし、沖縄をさらに知ることができました。いろいろ学ぶことができたので、本当に参加して良かったです。最後のフェアウェルパーティで参加者全員で踊った阿麻和利は大成功で終えることができ、本当に良かったです。

アイデンティティーについて初めて真剣に考え、改めて周りに支えられてることもわかりました。常に皆に感謝の気持ちを忘れずに、これからも何事も全力で頑張っていきたいと思いました。

海外のうちなーんちゅに今度は自分が合に行きたいです。本当にたくさんの良い思い出をありがとうございました。そしてたくさんの出会いに感謝です。



比嘉 ある (16)
Aru Higa
開邦高校
特技：ピアノ・合唱



百次 あゆみ (16)
Ayumi Momoji
球陽高校
特技：泡瀬京太郎

⑦「うちなーんちゅである事」

戦前、沖縄から多くの人々が海外に移住していきました。しかし、学校で移民について学ぶことはあまりありません。移住していった人々が移住先でどのように生きてきたのか、今どんな生活を送っているのか興味があり、このツアーに参加しました。一週間、県系三世、四世の人たちと平和について話し合ったり、スポーツ交流したりし、多くの驚きや考えさせられることがありました。

私が最も驚いたことは、海外参加者が祖父母や曾祖父母の故郷である沖縄を自分の故郷でもあると考え、自分がうちなーんちゅである事を誇りに思っていることです。

また、海外参加者の方がエイサーを踊れたり、民謡が歌えたりと、沖縄の伝統芸能にも興味を持っているようで、沖縄で生まれ育ったにも関わらず何もできない私は、自分はいちなーんちゅだと言っているのか、考えさせられました。今まで私は沖縄から外に出たことがなく、自分がうちなーんちゅであると自覚したことがありませんでした。

しかし、このツアーを通し、沖縄が好きだという気持ちや、うちなーんちゅであるという意識を持つ事が、うちなーんちゅである事だと感じました。

このツアーでできたつながりを大切に、沖縄がさらに発展し、うちなーんちゅが世界で活躍するためのコネクションにしていきたいです。また、学んだことを友達に伝え、移民について理解を深めていきたいです。

⑧「UJSで学んだこと」

私はうちなージュニアスタディーに参加して、本当にたくさんのことを学びました。そしてたくさん素敵な人たちに会うことができました。

私にとってこのツアーは何もかもが新鮮なことばかりで、一週間がとても短く感じました。

また、今まで私はある特定の国ばかりに目を向けていて、自分が好きな国以外には無関心だったので、このツアーの海外参加者の国について知らないことがたくさんありました。でも、海外参加者は沖縄について学ぼうとしているのを見て、自分もみんなの国に興味を持ちたいという気持ちと、今までの自分の視野の小ささを恥じる気持ちができました。沖縄の人だから沖縄のことだけを教えるのではなく、教える側も相手の国について知ることとはとても大事なことでその時思いました。だから今は、興味などに関係なくたくさん国の文化や言語を学びたいと思っています。

さらに、海外の人にとって沖縄は日本とは違う文化なので、どのように思われるか気になっていたのですが、彼らの反応は良くて、私は以前よりもっと沖縄に誇りを持つことができました。自分が大好きな沖縄をみんなも気に入ってくれたことはとてもうれしかったし、沖縄を気に入ってくれたみんなのことももっと大好きになりました。

そしてUJSは、国際的な活動をする方が沢山携わっていてその具体的な活動内容の一部を見て、自分も国際的な活動や仕事に就いてみたいと思いました。そしてもっとたくさん外国の方と交流したいと思う気持ちができました。

このようにうちなージュニアスタディーを通して学んだことや気づいたことがたくさんあり、自分がやりたいことも具体的ではないけれども、見つけることができました。しかし、それを今後の生活にどう生かしていくか、実際にどんな行動をとるのか、などわからないことはたくさんあるので、これからその答えを出していけたらと思います。



城間 愛里 (18)
Airi Shiroma
球陽高校
特技:三線・書道



平良 樹里 (15)
Julie Taira
沖縄尚学高校
特技:空手・暗算・ピアノ

⑨ 「UJSに参加しての感想」

今年の夏にウチナージュニアスタディーに参加して、私の世界が大きく変わりました。このプログラムに参加しようと思ったきっかけは、私の特技である三線をウチナーンチュ子弟の方々に教えたいと思ったからです。私は、このプログラムに参加するまで、海外のウチナーンチュ子弟の方々は三線について知らないと思っていました。しかし、海外のウチナーンチュ子弟の方々は、伝統芸能の取り組みにとっても力を入れていて、沖縄の伝統芸能を学ぶことで、先祖の思いを受け継ぎ、伝えていこうとしているということを知りました。私は、ウチナーンチュとして、沖縄のことを何も知らず、広い視野で物事を見ることができていないと感じました。

このプログラムを通して、美しい青い海、緑豊かな自然、首里城などの世界遺産を体験し、移民や平和について学んだことは、沖縄のことを見つめ直すきっかけになり、沖縄のことがもっと好きになりました。また、昔の人達から歌い継がれて、沖縄の歴史と共に歩み、たくさんの思いが込められた三線をたくさんの人に伝えていきたいと改めて思いました。

この一週間、悩んだり、苦しんだり、言葉の壁に戸惑うことも多かったけど、失敗を恐れず、勇気を出して自ら積極的に行動することで、たくさんのものを得ることができるということを知りました。この貴重な経験は、私にとって一生忘れられないかけがえのない宝物です。ウチナージュニアスタディーで繋がったウチナーンチュの絆をこれからも大切に、さらに深めていきたいです。

このプログラムで、みんなと出会えたことに感謝しています。ありがとうございます。

⑩ 「UJSに参加して」

ウチナージュニアスタディーは私に大きな影響を与えてくれた。同世代のウチナーンチュ子弟達と交流をするというプログラムだった。日本の反対側の南米をはじめ、アメリカ、メキシコ、カナダやたくさんの国々からウチナーンチュ子弟達が集まってきた。私は沖縄に対する思いや先祖達からどのような学びがあったのか直接話を聞き、自分で確認したかった。

そこで、プログラムに含まれている移民学習、歴史学習、平和学習などのプログラムなどの学習プログラムに取り組んで様々なことを学んだ。沖縄県における移民の歴史や海外のウチナーンチュの広がりや深く学べた。このような取り組みやディスカッションを通して、言語を越えて一緒に考えていける関係を作った。

そのような関係を作り、最高の友達、仲間に出会えた。実際に知らない土地で言葉も違う環境で育って苦しい生活乗り越えた友達もいた。また、自分自身のアイデンティティも語り、交流をした。さらに、自分の英語能力を確かめながら色々な話をし、絆を深めていった。

最後に、この事業で学んだことは、国際理解や言語の重要性だ。英語はもちろん、スペイン語やポルトガル語を学びたいという思いが強くなった。そこで、私が将来、ウチナーンチュ子弟達の国を訪れるとき、子弟達が沖縄に来るときに英語だけではなく、スペイン語やポルトガル語でコミュニケーションを取っていきたいと思った。

また、コミュニケーションツールとしてSNSなどで連絡を取り合っていきたい。そして、このプログラムで学んだ経験を生かし、近い将来、世界に羽ばたき、沖縄を紹介していきたい。



ブースクリ 海 せーる
クリストワ (15)
Bousckri Kai
沖縄尚学高校
特技：ヴォイスパーカッション



金城 佳恋 (16)
Karen Kinjo
沖縄尚学高校
特技：空手・バスケ

⑪海を越えて広がるルーツ

これまでの十五年、私にとっての沖縄の家族は、母と母方の親戚だけであった。フランス人の父をもつ私は、沖縄では特別な環境にいるのだと思っていた。このプログラムに参加した理由は、私の血の半分である沖縄についての知識を深めたかったことと、私と同様に沖縄以外のルーツも持つ同世代の人たちに会ってみたかったからだ。

「ジュニアスタディー」に参加して、世界には沖縄にルーツを持つ人たちが、たくさんいることを知り、驚きと同時に嬉しくもあった。様々な国に住む同世代の人たちが、ウチナーンチュという共通した血をもつことで、沖縄に集まり、共に沖縄文化を学び、沖縄の美しい自然に触れ、沖縄を再認識すると同時に誇りに思ったにちがいない。

学習期間は様々なプログラムが提供され、面白く参加することができた。阿麻和利バックステージツアーでは、沖縄の歴史に触れることができ、ネイチャー未来館ではカヌーマングローブを体験し沖縄の生態系を理解した。

また、フェアウェルパーティーでは、親しくなった日本人、外国人ウチナーンチュと共に「ダイナミック琉球」を踊り、絆が更に強まった。どれもこれも充実したプログラムであった。それぞれのウチナーンチュが、生まれ故郷に帰っても、プログラム中に培った友情を継続し、ウチナーンチュのネットワークを更に広げ、次世代にバトンタッチできることを祈る。

「ジュニアスタディーツアー」は、ウチナーンチュ子弟にも沖縄に住む若者にとっても素晴らしいプログラムだと思うので、これから先も未来のウチナーンチュのために継続して欲しい。このツアーを支えてくださった多くの関係者の方々に感謝します。

⑫「ウチナージュニアスタディ」

最初、このプログラムに参加して自分のアイデンティティについて考えさせられたとき、自分の沖縄人に対する思いは日本人よりすくなくかったです。周りの環境がということもありますが、初めの私は沖縄のことをまったく知りませんでした。

でも今回のプログラムを通して自分の知らなかった沖縄を知ることができました。沖縄自体がこんなにも国際的な島だったとは思いませんでしたし、移民をした沖縄人、その孫達ともウチナーンチュの心でつながっている気がしました。今まで何回か国際交流をしてきましたが今回のジュニアスタディでは直に海外の人の意見を聞くことができいい経験になりました。

私は今回のプログラムを通して沖縄人としての誇りがもてるようになりました。沖縄人の考えやずっとつながっている絆、これらはこのプログラムに参加していなかったら知ることができなかつたと思います。

ですが私のやるべきことはこれからだと思っています。私はこのプログラムで学んだことをもっと多くの人に知ってもらいたいと思いました。そのためには自分は将来、日本で沖縄人として活躍していける人になりたいです。



上原百代 (17)
Momoyo Uehara
名護高校
特技:吹奏楽



大浜 秀吾 (18)
Shugo Ohama
名護高校
特技:野球

⑬ 「UJSに参加しての感想」

この事業に参加して私は将来の夢の視野が広がりました。私は将来、沖縄の歴史や文化を保護し、後世に伝えていくような職業につきたいと考えています。そのために、大学にて沖縄について学び、知識を増やしていくつもりです。その過程としてこの事業で私の将来の目標に近づけるのではないかと考えました。

以前、私は沖縄の歴史や文化の継承は沖縄だけで、地域の繋がりを重視していました。しかし、この事業に参加して海外のウチナーネットワークの繋がりの強さを感じ、沖縄から世界へ発信することも大切なことだと知りました。

また、ワークショップでは、他人の意見を尊重するだけでなく、自分の意見も主張し、バランス良く話し合いをする術も学ぶことができました。グループ内で意見がわれ、意見をまとめることが出来ず、言い合いになってしまう場面もありました。日本語がうまく話せない海外参加者がいたときは、意思疎通がうまくできず、話し合いが中断してしまうこともありましたが、スタッフの方々にアドバイスをもらったりしながら、話し合いをして意見をなんとかまとめることができました。話し合いがこんなにも難しいことに驚きました。

私は海外参加者の沖縄を離れても、沖縄の文化や習慣を大切にしよう、伝えていこうという気持ちや、県内参加者の沖縄を知りたい、継承したいという思いを知り、ウチナーネットワークの繋がりの強さを感じる事が出来ました。この繋がりを継続していくために、イベントやSNSなどを利用して交流をしていきたいと思えます。

⑭ 「UJS2013を終えての感想」

私がこの事業に参加したきっかけは、学校の先生の紹介でした。私は以前から沖縄の文化と国際交流に興味を持っていたのですが、なかなかチャンスがありませんでした。そんなときこの事業の話聞き、参加を希望しました。参加が決定した時はすごく嬉しかったのを覚えています。

UJS当日、私は日本語以外話せなかったもので、海外参加者の方々とうまくコミュニケーションがとれるのかとても不安でした。しかし、実際に話してみると日本語も上手で、英語ができない私でも簡単な言葉を使って会話をしてくれて、すぐに親睦を深めることができました。

夜の自由時間は、一つの部屋でみんなで遅くまで騒いだり体育館でバスケやバレーをして汗を流したりとても充実していました。

たった一週間という短い期間でメンバーの絆はとても強くなり、フェアウェルパーティーの時にみんなで歌った「島ん人ぬ宝」はとても感動的で、みんなが涙を流したのを覚えています。

私は、この事業に参加したことで世界に広がるウチナーンチュの絆の強さを実感しました。この経験を通して、私は将来、国際交流組織を作り沖縄の若者に今以上に沖縄と世界との絆を実感してもらえようような仕事がしたいと思うようになりました。この気持ちを忘れず、夢に向かって頑張りたいと思えます。

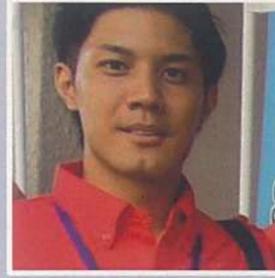


大久 英美 (16)

Hidemi Daiku

八重山高校

特技：エアー・空手・
バレー



眞榮城 駿 (21)

Shun maeshiro

沖縄国際大学

特技：スポーツ全般

⑮ 「UJSに参加して」

私はこの夏、ウチナージュニアスタディ
ィーに参加して改めて沖縄が好きになり
ました。

初めての事前研修で沖縄に住み、地元
のことを誇りに思っている新たな仲間
に出会い、海外に住み、親族から受け継が
れた沖縄の歴史や文化を心から大切に思
う仲間に出会い、私にとってこの九日間
はかけがえのない家族を作ることの出来
た時間だったと思います。

研修初日、言葉の壁に対してかすかに
不安を抱いていた私は海外参加者に積極
的に話しかけることに自信がありません
でした。でもその日の夜、体育館でバレー
ボールをしながら初めて海外参加者と
仲良くなるのが出来たあの感動は今で
も忘れられません。それがきっかけで私
はその後もものすごく積極的にコミュニケ
ーションを交わすようになり、友情は言
葉じゃないんだと感じることが出来ま
した。

また、私がこの多くの研修プログラム
を経て、沖縄についてさらに知り、伝え
ななきゃいけないと強く感じたことの一
つに戦争があります。唯一の離島参加者だ
った私にとってひめゆりの塔を見学する
のは初めての経験でした。今の私と同じ
年頃の女学生が生き残った戦争の実態、ひめ
ゆり学徒隊の歴史をこんな機会で見ること
によって、この最高の仲間との出会い
に感謝し、これからも世界中にいる沖縄
を大切に思う人達とつながっていくこと
が私がすべきことなんだと思います。

研修中に何度も聞いた曲の中に、「僕
らが伝えなきゃ」という歌詞があります。
沖縄出身のアーティストが歌うこの詩のよう
に、私達に出来ることはこの島の良さを
伝え続け、大切に守っていくこと。

UJSを通して私の心に大きく響いた一番
の出来事でした。

今後、そんな自分のアイデンティティ
を持ちながら、沖縄をもっと好きになっ
ていくことが今の私の夢です。この経験
をこれからもずっと生かして沖縄と、つ
ながっていきたいと思います。

⑯ 「UJSに参加して」

5月に青年リーダーが決まりプログラム
が終わるまでの約3か月は、私にとって非
常に価値があり、成長できた期間でした。
私は今回が2回目の参加ということもあり、
今年の参加者に、過去の経験を話すこと
や周りの状況をみてチームをまとめる
といったリーダーとしての仕事を果たせ
たと思います。

また、ボランティア企画のウェルカム
パーティーやキャンプファイヤーも周り
の協力で成功しました。その中で私が1
番成長できたと感じたのは、事前学習や
その他の場面でファシリテーションとし
て参加者の意見を引き出した事です。本
格的なファシリテーションは今回が初め
てでしたが、非常に良い経験になりました。

プログラム自体は学びの面が多く、勉
強になる事が多かった印象です。特に海
外参加者にとっては、アイデンティティ
をみんなと考えることや沖縄の歴史を学
ぶ機会が彼らにとっても価値のある体験
だったのではないかと思います。海外参
加者は自分のアイデンティティについて
様々な意見を持っていて、中には葛藤を
抱いていた事があるかもしれない彼らが
ウチナーンチュで良かったと思ってく
れている事に感動しました。

最初は県内参加者と海外参加者の間に
壁がありましたが、どうにかコミュニケ
ーションを図ろうとする彼らを見て頼も
しさを感じました。この出会いは一生の
宝物で、大切にしていかなければなりま
せん。そしていつか県内参加者が、それ
ぞれの国で再会を果たす時があれば、こ
のプログラムが本当に大きな価値があ
ったという証明になると思います。私も近
いうちに再会できるように語学もその他
の事も頑張ります。

そしてなにより、このプログラムに携
わったすべての方々に感謝を申し上げます。

4.参考資料

平成 25 年度ウチナージュニアスタディー事業アンケートとりまとめ

アンケート回収率：81% 【参加者：県内 16 名、海外：16 名 回答者：県内 12 名、海外：14 名】

1-1. 事前学習（7月6・20日）の評価とその理由をお聞かせください。（県内参加者のみ）

(1) 総合

非常に良い 5 良い 6 どちらともいえない 0 よくない 0 無回答 1

(2) 時間

妥当 8 長い 1 短い 2 無回答 1

- 理由・研修に参加する準備と心構えができた。 ・事前にたくさんの事が学べ、沖縄を知る意欲がわいた。
- ・事前に学習することで、移民の歴史を知ることができ、プログラムの趣旨を理解することができた。
 - ・県内参加者と顔合わせができてよかった。
 - ・グループでの活動が多く、他と話す機会が少なかった。昼食をはさむと、話す時間ができていい。



1-2. ホームステイの評価とその理由をお聞かせください。（海外参加者のみ）

(1) 総合

非常に良い 12 良い 2 どちらともいえない 0 よくない 0

(2) 時間

妥当 9 長い 1 短い 4

理由・親戚と会って時間を過ごすのは最高だった。

- ・自分の住んでいる場所の反対側にいる家族に会える機会は滅多にないので、とてもよかったです。
- ・もう一度親戚に会い、ひいおじいちゃんの33年忌とおじさんの7年忌に参加することができたから。
- ・よかったです。新しい友達ができ、親戚にも会いました。日本語力も低いし、スペイン語もあまりわからないから、コミュニケーションを取るのが難しかったです。
- ・大歓迎されました。スペイン語が通じたから、言葉の壁がなかったです。そして、祖父母の歴史より知ることができました。彼らの経験を聞いて、いい勉強になりました。親戚は皆親切でした。プログラムに入ってなかった場所に連れて行ってもらいました。



2. 学習プログラム（8月4～10日）の評価とその理由をお聞かせください。

(1) 総合

【県内参加者】 □非常に良い 12 □良い 0 □どちらともいえない 0 □よくない 0

【海外参加者】 □非常に良い 10 □良い 4 □どちらともいえない 0 □よくない 0

(理由)

【県内参加者】

- ・学校で学べない事や体験できないプログラムがあった。
- ・沖縄の歴史なども学べてとても興味があったので、本当に勉強になりました！！
- ・移民学習、自然学習、平和、スポーツ…と様々なジャンルで交流できてよかった。
- ・参加者達と交流して沖縄に対する思いを知り、うちなーネットワークの繋がりの強さを感じる事が出来た。
- ・自分の知らなかった移民・文化・沖縄が知れてよかった。

【海外参加者】

- ・プログラムはよく組み立てられました。沖縄についていろいろ勉強できました。
- ・他の参加者と交流するのに時間が足りなかったです。
- ・非常に良いにつけなかったのは、まだ改善の余地があると思うから。
- ・一日中色々な事を学んでいたのに、ゆっくりとメンバーと話す時間が少なかったな、とも感じました。
- ・世界中にいるウチナーンチュウに出会ってよかったです。自分のアイデンティティを見つけた気がします。短期間で一つの家族になりました。
- ・予想していたほど他の参加者をよく知ることができなかったです。
- ・バランスのいいプログラムでした。違う文化の人がいたけど、いいグループができました。



(2) 期間（学習プログラム）

【県内参加者】 妥当 5 長い 0 短い 7

【海外参加者】 妥当 5 長い 0 短い 9

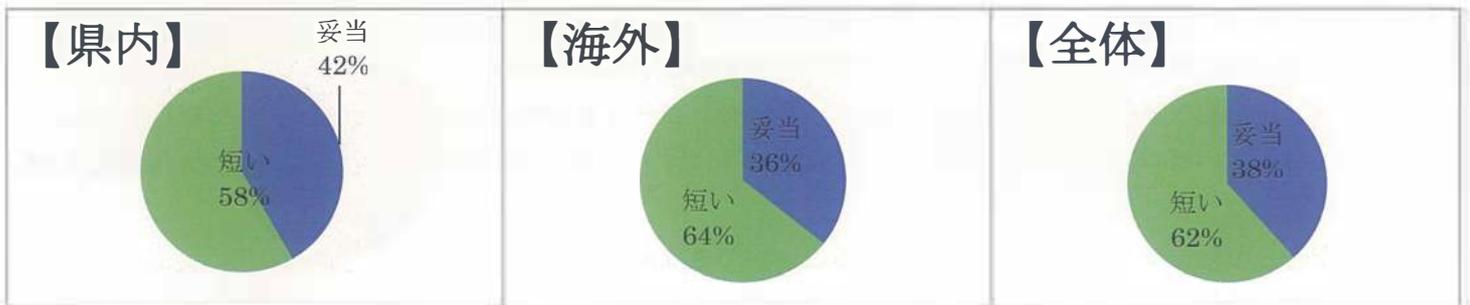
(理由)

【県内参加者】

- ・1週間はあっという間で、もっともうと海外参加者と話をしたかったから。
- ・予定を詰め込みすぎている気がした。もう少し長くても良いと思う。
- ・夏休みでそれぞれ学校の課題等をする時間も必要だと思うので、いいくらいの期間だと思います。
- ・一週間で絆が深まった。 ・集中が切れないくらいだった。

【海外参加者】

- ・他にも色々体験したかったのもっと居たかった。・期間が夏で、荷物が少なめになる。海に入れる。
- ・色々なプログラムを体験出来て時間的にはとても良いと感じましたが、夜は眠くてメンバーと過ごせなかった。
- ・充実したプログラムだけど、やっぱり海外参加者にとって、どんな長い期間でも短く感じるはずですよ。
- ・スケジュールに学習プログラムがいっぱい入っていて、時間を最大限に使いました。
- ・ホームステイは学習プログラムが終わってから、行われたほうが良いと思います。



(3) 一日のスケジュールについて

【県内参加者】 妥当 7 詰め込み過ぎ 5 もの足りない 0

【海外参加者】 妥当 10 詰め込み過ぎ 4 もの足りない 0

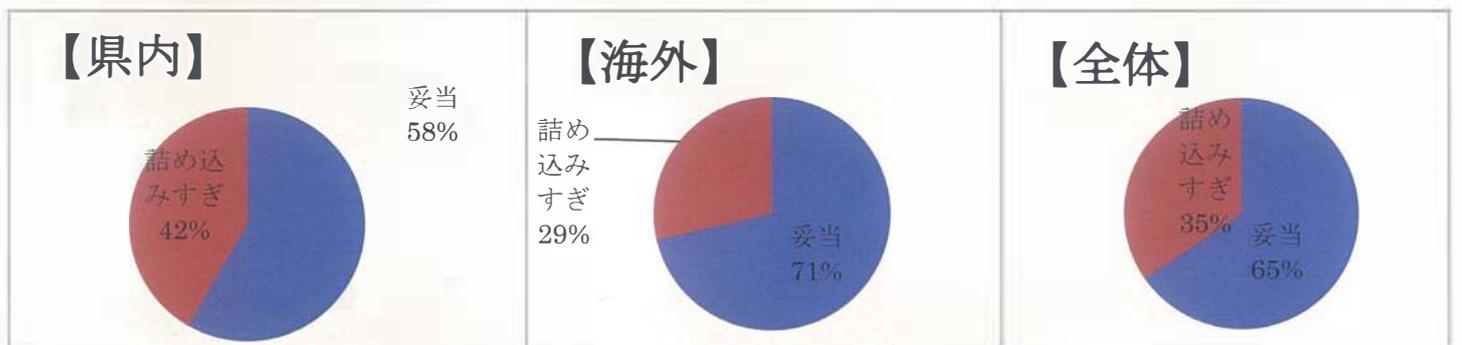
(理由)

【県内参加者】

- ・分刻みのスケジュールで、いっぱいになってしまう日もありました。 ・少し休憩時間を長く欲しいです。
- ・このスケジュールでいいと思います！やること沢山で充実してました。
- ・忙しくてへとへとになった時もあったけど、それはそれでとても充実していたから。
- ・時間が空きすぎず、詰めすぎず適当に良かった。 ・洗濯の時間を確保してほしいと思ったから。

【海外参加者】

- ・沢山のすることがあったり、いい経験もあったりけど、焦らなかった。・妥当だが、やることがハードだった。
- ・多すぎず少なすぎず、沢山の事を学ぶことが出来たと思います。・詰め込みすぎ、夜に自由時間がほしい。
- ・一日のプログラム後、僕はやりたいことができたから。 ・一日中忙しかったため、夜の勉強会は疲れた。



(4) 宿泊先について (J I C A 沖縄国際センター・金武ネイチャーみらい館)

【県内参加者】 □非常に良い 8 □良い 3 □どちらともいえない 1 □よくない 0

【海外参加者】 □非常に良い 10 □良い 4 □どちらともいえない 0 □よくない 0

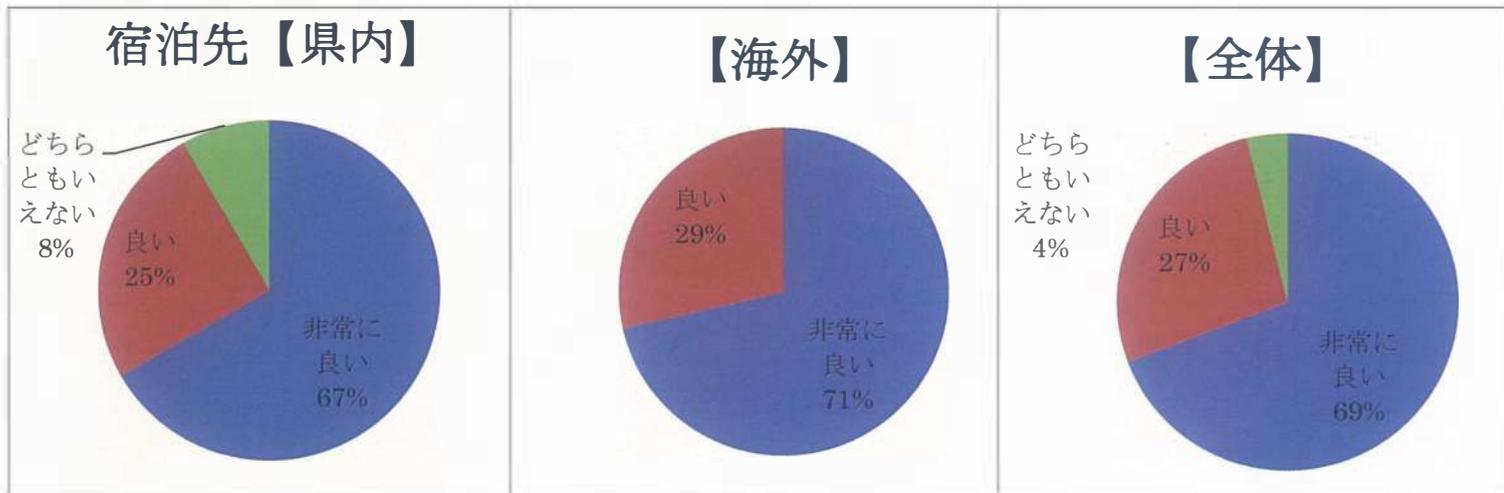
(理由)

【県内参加者】

- ・ JICA は、階段多かったけれどいい運動になると思ったから。また、談話室がとてもよかった。みらい館は、数人で一部屋に泊まってとても楽しかったから。
- ・ みんなといっしょにいたいけど、やっぱり一人になる時間も必要だと思うので、JICA の宿泊部屋はとてもよかったです。
- ・ どちらの宿泊施設も洗濯機が少なく、乾かなかったので、洗濯しやすくしてほしい。
- ・ JICA では施設が充実していたが、金武での宿泊先ではシャワーのトラブルもあり参加者は不便に感じたかもしれない。

【海外参加者】

- ・ とても大きくて迷いやすかった。 ・ 両方設備が整っており、過ごし易かったです。
- ・ 一人部屋なのでおちつけた。でも、みんなで寝たときは話ができてよかった。
- ・ 設備がよかったです。(ランドリー、ミュージックルーム、ビリヤード、卓球など)
- ・ J I C A でのサービス・アテンドがよかったです。足りないものがなかったです。
- ・ いいところでした。休めました。サービスもよかったです。しかし一人部屋じゃなくて、相部屋のほうがよかったです。
- ・ JICA の寮はよかった。トイレが少なかったし、お風呂に入るにはお金を払わないといけなかった。



(5) 食事について

【県内参加者】

・量 □妥当 3 □多い 8 □ものたりない 1 ・味 □美味しい 12 □ふつう 0 □美味しくない 0

【海外参加者】

・量 □妥当 12 □多い 1 □ものたりない 1 ・味 □美味しい 14 □ふつう 0 □美味しくない 0

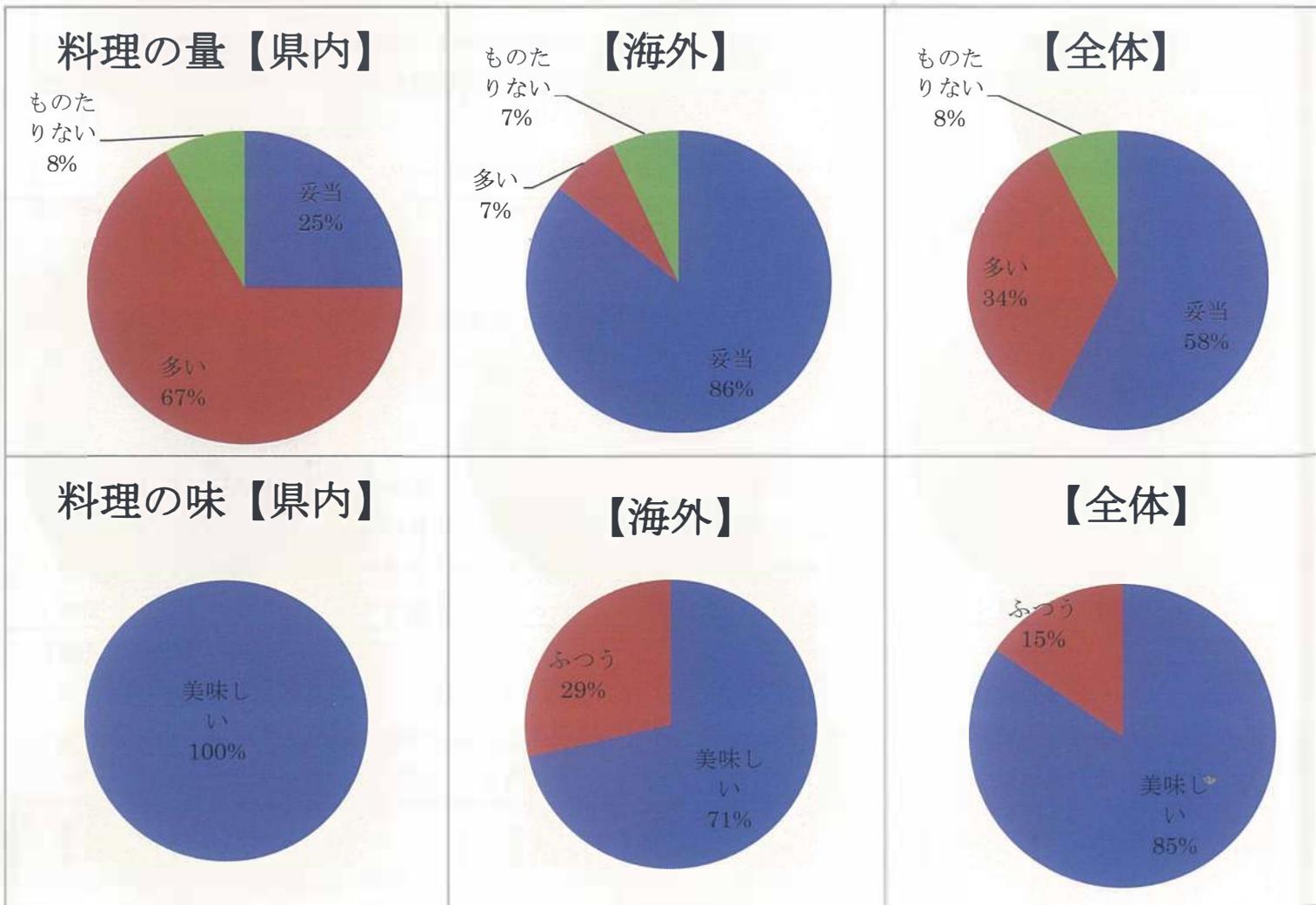
(理由)

【県内参加者】

- ・とてもおいしかったけど、多くて残してしまうのがもったいないと思いました。
- ・量の面では、僕みたいな体の大きい男子からすると少し物足りないと思います。

【海外参加者】

- ・いろいろな沖縄料理を食べてみてよかった。 ・毎日違う食べ物だったからです。
- ・帰国したら、家族に「太っちゃったね」って言われました。
- ・食べ物は大丈夫でした。食べたことのなかったものも食べてみました。
- ・JICA の食べ物はよかったけど、プログラム中に飲み物の支給が足りていなかった。
- ・自分で食べたい量を決めることができたのがよかったです。ときどき調味料の多い食事が出ました（例えば、こしょうの多い食事を食べました）。



(6)各学習プログラムの中で特によかったものを3つまで選び、その理由をお聞かせください。

【県内参加者】

- 社会学習Ⅰ（那覇まちまーい） 1 □社会学習Ⅱ（こどもの国） 0
- 伝統芸能Ⅰ（肝高の阿麻和利） 7 □伝統芸能Ⅱ（パフォーマンス） 3
- 自然学習Ⅰ（金武ネイチャー） 7 □移民学習 4 □歴史学習 4 □平和学習 3
- 総合学習Ⅰ（WYUA） 4 □総合学習ⅡⅢ（ワーク、振り返り） 3
- その他 0 □特になし 0

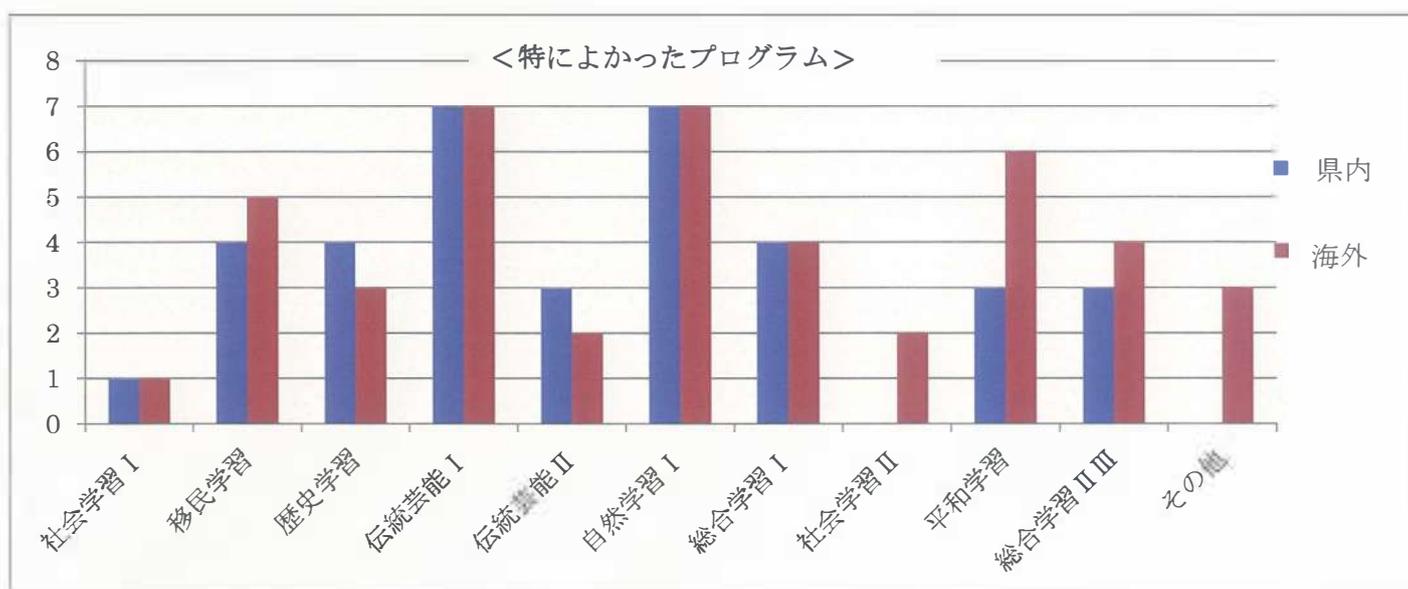
【海外参加者】

- 社会学習Ⅰ（那覇まちまーい） □社会学習Ⅱ（こどもの国） 2
- 伝統芸能Ⅰ（肝高の阿麻和利） 7 □伝統芸能Ⅱ（パフォーマンス） 2
- 自然学習Ⅰ（金武ネイチャー） 7 □移民学習 5 □歴史学習 3 □平和学習 6
- 総合学習Ⅰ（WYUA） 4 □総合学習ⅡⅢ（ワーク、振り返り） 4
- その他 3 □特になし 0

(7) 各学習プログラムの中で良くなかったものを3つまで選び、その理由をお聞かせください。

【県内参加者】 □特になし 12

【海外参加者】 □総合学習Ⅰ 1 □総合学習ⅡⅢ 1 □特になし 10



(プログラムで特に良かった点)

【県内参加者】

- ・グループ学習での意見交換がとても楽しく、印象に残っていて、特に重要な取り組みだと感じました。
- ・那覇まちまーいで、グループの中に県内参加者は一人だったので外国語を使いながら、自分の知らなかったことを学ぶことができたところが良かったです。
- ・アルトゥーロさんのお話や、WYUA の活動に関すること、移民かるたなども、とても良かったです。
- ・移民学習は、これまで学校で学んだことがなく、とてもよかった。
- ・県内組と海外組が一緒になって活動したり、話し合ったりすることで、より絆や友情が生まれたと思います。
- ・海外参加者と沖縄について話す機会が多くあったことがよかった。特に平和学習や WYUA のワークショップ、研修成果発表の準備ではグループでたくさん話し合えてよかった。
- ・プログラムで特によかったことは、地元である、うるま市で伝統芸能を学べた阿麻和利です！最後にみんなと踊って最高でした！そして、最後の振り返りまとめではみんなと別れるのが寂しくて、涙がでそうになったけど、無事にこれまで学んできたことを話すことができました。・藍染した手ぬぐいはお土産になり、よかった。
- ・平和学習で元ひめゆり学徒隊だった女性の話にはとても感動させられました。また、沖縄についての学習もとてもよかったのですが、自分のアイデンティティに関してのワークショップなんかもすごく良かったです。
- ・移民学習では、県内参加者にとって知らない歴史を学べたと思うし、海外参加者は自分のルーツを他国の参加者と共有できたのはとても貴重な経験になったと思う。
- ・自然学習は沖縄の自然を満喫できたと思うし、WYUA のワークショップでは参加者のビジョンにもなったと思う。
- ・海外参加者となかよくなれるようなイベントがたくさんあって良いと思った！体を動かすアクティビティは自然と盛り上がれてすごく良かったです。
- ・今まで沖縄について知る機会があまりなかったので、今回の移民学習で沖縄人のすごさを知りました。

【海外参加者】

- ・心と体の活動のバランスがよかった。 ・キャンプファイヤー
- ・歴史学習ではなぜ沖縄では伝統芸能が盛んなのか、移民学習ではウチナーンチュたちの移民先での暮らしがわかかったからそれらもよかったと思う。
- ・三つしか選べないのが残念な程に、全て勉強になり、良かったです。それぞれ、深く考えさせられ、勉強になるものばかりでした。
- ・すべての学習プログラムが面白くて楽しかったです。報告会で色々考えさせられて、大事でした。
- ・各学習プログラムは好きだったけどこの三つ（移民、自然学習Ⅰ、総合学習ⅡⅢ）は大事だと思います。移民・沖縄の自然・アイデンティティについて学べるからです。
- ・よかった点は様々な学習プログラムがあったことです。その中から沖縄の歴史、伝統芸術、移民、沖縄戦争、WYUA、特にウチナーンチュのアイデンティティのワークショップが良かったです。ダイナミック琉球の練習のおかげで皆が仲良くなりました。来年度に参加する若者も同じように練習できればいいなと思います。肝高の阿麻和利のショーを見てすごく感動しました。皆さんのパフォーマンスがすごかったからです。すべてのパフォーマンスを見たくなりました。意見交換も大事だと思います。色々考えさせられるからです。
- ・なぜひめゆりがよかったかという、犠牲者の苦勞を分かったからです。僕の祖母たちがいたから、興味がありました。ビデオが面白かったです。アクティビティ・交流で金武ネイチャーみらい館が一番良かったです。カヌー・キャンプファイヤー・ゲーム・BBQが良かったです。自然についても学びました。アイデンティティのワークショップも良かったです。特にアイデンティティについて考えてなかった子にとって、よかったと思います。
- ・WYUA のワークショップが良かったです。留学生と交流できたからです。

3. 研修成果報告会（8/10）の評価とその理由をお聞かせください。

(1) 総合

【県内参加者】 □非常に良い 5 □良い 6 □どちらともいえない 0 □よくない 0 □無回答 1

【海外参加者】 □非常に良い 9 □良い 4 □どちらともいえない 0 □よくない 0 □無回答 1

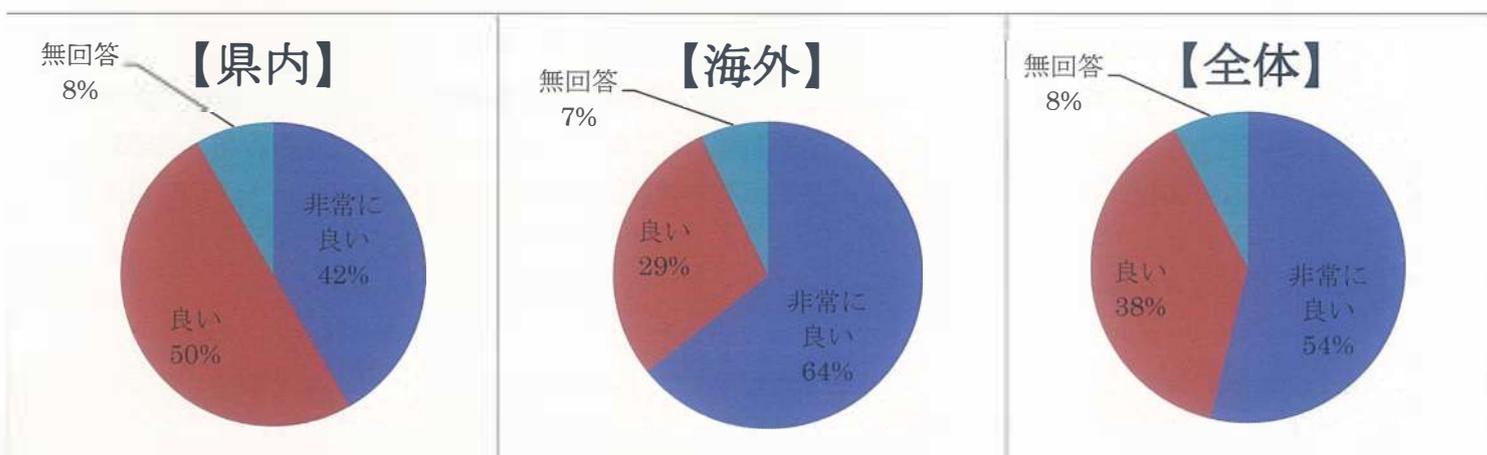
(理由)

【県内参加者】

- ・各グループが、自分たちの沖縄のよさについて考え、まとめ、発表し共有できたのがとてもよかったです。また、保護者やホームステイ先の方々も、楽しんでくれたみたいで、よかったと思います。
- ・1週間の成果や感じたことを、私たちになりに表現し発表できたと思うから。
- ・各グループの発表の後に一人一人の研修の思い（感想）を発表する時間があってもいいと思いました。
- ・最後の成果発表で、いちやりばちよーでーのことを勉強したことをちゃんと話すことができ、本当に良かったです！
- ・制限時間があったので、もう少し時間をとってゆとりをもってもいいと思う。
- ・みんながそれぞれのスタイルで発表していて楽しかったし、飽きなかった。沖縄についてのいろいろな考え方を知れてよかったから。
- ・沖縄の宝について、色々な意見が聞けた。
- ・どこの班もまとまったプレゼンをしていて、改めて沖縄のことを知れた。

【海外参加者】

- ・ウチナーンチュネットワークをどう広げるか、どう「沖縄」を残していくか。様々な国の方々とその考えを共有し、自分達に出来る事を考える、とても自分の中でその大切さをより強調する事が出来ました。
- ・充実した面白いプログラムでした。学習・振り返り・娯楽の時間のバランスがありました。
- ・報告会では喜び・悲しみなど様々な気持ちが入り混じり感極まりました。
- ・自国紹介・報告会に自分の意見・印象を皆さんと分かち合っってよかったです。私なりに頑張っって発表しました。他の意見を聞いて、私の意見と共通点があっってよかったです。
- ・各グループの発表がよくて、メッセージが伝わったからです。
- ・親戚・友達は見にこれてよかったです。しかし、準備のときにばたばたしました。



4. 今回の一連の研修で最も印象に残ったことをお書きください。

【県内参加者】

- ・倒れてからまた戻ってきた時の、みんなの優しさが心に沁みました。
- ・移民のことについて知る機会は、今までなかったので知ること全てが驚きの連続でとても印象に残りました。
- ・今回の研修で印象に残ったのは、最初、県内参加者と海外参加者の間に壁があるように思えて、なかなか打ち解けられずにいたけど、組踊りの練習・発表を通じて、心もひとつになれた気がします。
- ・印象に残ったのはやっぱり夜遅くまでした、阿麻和利の練習です！皆で協力し頑張った甲斐がありました！海外のうちなーんちゅと出会えたことは、本当にかげがえのないもので、一生の思い出だし、宝物となりました。UJS2013のおかげで変わることができた自分もいるし、とても最高の思い出です！！まだ、UJSに戻りたくなる時は、写真を見て思い出しています。スタッフの皆さん本当にお世話になりました。
- ・海外参加者に、沖縄について教えてもらうことも多かった。沖縄に生まれ育った人として、もっと沖縄について知り、方言や伝統芸能を覚えたいとおもった。
- ・日本語を話せなくても、沖縄の歌を歌えることにおどろいた。言葉が通じなくても、同じ歌を歌い、心が通じたような感じがうれしかった。
- ・夜にみんなでバド、バレー、竹馬などをしたこと。話せていなかった人ともスポーツをきっかけに話せた。
- ・海外参加者と交流して、外国の人のいろいろな考え方や意見を聞いて話し合うことができたことです。学校で日本人と話し合うのとはやはりどこか違ってとても新鮮だった。
- ・フェアウェルパーティーで、みんなと島人ぬ宝をうたったこと。
- ・沖縄の歴史を学んだ時に、沖縄の文化が逆境の中で作られたものだと知り、驚いた。阿麻和利も感動した。
- ・すべて、とてもいい経験でした。特に、移民学習で沖縄はウチナンチュで今もつながっていると実感することができました。また、報告会のときにみんなで輪になって歌ったとき、これでみんなと集まれるのは最後と思うと悲しかったです。それだけ充実した一週間だったと思います。

【海外参加者】

- ・全部違う印象を残ったのか一つだけ選べない。 ・三線、踊り、習慣、料理
- ・短期間に、たくさん学ぶことができてよかったです。沖縄人のおもてなし、寛大さはすごいです。沖縄は大きくないけど、素晴らしいところがいっぱいあります。いい思い出になりました。
- ・今までには興味が無かった国々の人と知り合い、是非その場所へ行きたいと感じるようになりました。こうして考えると、スペイン語を話せないのに自然とラテン・アメリカの方々と仲良くなり、初めて会った国内参加者の方々と沢山話したり、とても夢の様でした。「いちやりばちよーでー」は本当にあったんだな、と感じた日々でした。遠くに住む沢山の兄弟と、また会いたい、と本当に感じた研修でした。
- ・振り返りのワークショップが印象に残りました。みなさん自分の意見を言ったからです。
- ・沖縄県の参加者が方言を知らないことにはびっくりしました。みんな社交的な人でした。
- ・やっぱり阿麻和利バックステージツアーがとてもよかったです。同じ年くらいの子たちが演じる姿にとっても魅了されたし、沖縄であんな感動的なものを見られるとは思っていませんでした。
- ・海外・県内参加者は一丸となったことです。こんなに皆と交流出来ると思わなかったです。学習プログラムの全てはよかったです。
- ・一番印象に残ったのはウチナンチュの心の温かさです。サービスもすごいです。他の国と比べられないぐらいです。そして、沖縄人の人間・自然・文化への尊敬がすごいと思いました。色々学びました。
- ・今回のプログラムでアイデンティティ・ルーツについて色々分かるようになりました。新しい友達も作りました。だから目標を果たせたと思います。私の家族、暮らし、習慣など知ることができました。このプログラムに参加して誇りに思っています。友達に推薦ようと思っています。

- ・本当のうちなーんちゅ魂を感じた。沖縄の人は文化を大事にして、参加者にそれを伝えてくれた。
- ・一番印象に残ったのはアイデンティティのワークショップでした。海外参加者の多くは自分のアイデンティティは何かとわかってなかったようだからです。結局、私たちは「ウチナーンチュ」だと分かりました。

5. 同事業について今後どのような内容を希望しますか。

【県内参加者】

(1) 事前学習

- ・話し合い活動をさらに進め、移民や私たちの住んでいる沖縄について意見を交換し発表できるような内容。
- ・昼食を一緒にとる！
- ・プレゼンの準備がぎりぎりだったので、一回は午後までやってもいいのではないか。
- ・移民のこととかだけじゃなくて、海外参加者の国について少し学習する時間を設けてもいいと思いました。
- ・海外のウチナーンチュの暮らしを知りたい
- ・グループだけではなく、全体の交流もしたらみんなと仲良く出来たと思う。
- ・自己紹介、県内参加者同士でのアクティビティ。

(2) 学習プログラム

- ・ムーチャー作りなどの郷土料理を作る体験などの食文化に関することを入れたり、沖縄の良さを改めて感じ発信していけるような内容。
- ・離島ややんばるでキャンプをしたい。野外炊飯やテント設営は協力が必要だから、仲が深まると思う。
- ・沖縄の今の問題点（基地問題、環境問題）や海外参加者の国の問題（県人会での活動など）について
- ・もう少しアクティブな学習を増やしてもいいと思いました。
- ・移民の歴史をもう少し掘り下げて今後の日系社会について考える機会があっても良かった。
- ・沖縄の町並みを散歩 ・もっと話し合いの時間が欲しかった。

(3) 報告会

- ・これまで学んできたことを振り返ったり、うちなーネットワークがどのように繋がっていているのかについて、みんなで意見などを交換できるような内容。
- ・テーマを決めての報告会は、よかったですと思います。ただ、報告会で海外参加者一人一人の感想が聞きたかったので、発表する機会があったらいいと思います。
- ・今後もこのようなプログラムが増えて、ウチナーンチュネットワークが広がれば、いいと思います！
- ・全員で同じテーマに沿って発表したので、色んな考えが見れてよかったが、プログラムの内容でグループ分けしてもいいと思う。

【海外参加者】※ (1) ~ (3) あわせて。

- ・いろんな分野を学んだから（歴史、文化、自然等）総合計画だったと思う。
- ・U J Sの各学習プログラムの内容が良かったです。それ以上入れないほうがいいと思います。入れたら、目的が果たせなくなると思います。
- ・皆さんと平和祈念公園に行けば良かったです。できれば、事前に参加者の名簿（住所・電話番号）をもらいたいです。帰国日の2日前に私の泊まったところの近くに県内参加者が住んでいたと分かっていました。もっと早く知っていればよかったと思います。
- ・参加者の自己紹介。琉球ダイナミックのダンスの毎日の練習。プログラムの期間を10日間に延ばしてほしい。毎朝ラジオ体操をしたい。

- ・ 美ら海、琉球村に行くことです。 ・ 藍染め体験のほか、琉球ガラスや機織り、陶芸体験。
- ・ 阿麻和利バックステージツアーと成果発表の出し物としてダイナミック琉球
- ・ 参加者同士、キャンプファイヤーでやったようなレクをビーチでもする。
- ・ 沖縄本島だけでなく、他の島にも行って見たかったです。 ・ 調理実習（サーターアンダギーなど）
- ・ 沖縄舞踊の関連するプログラムがもっとあればよかったです。例えば、エイサーや三線ワークショップ。
- ・ 金城さんのワークショップはよかったです。
- ・ ウチナーグチ講座。

6. その他意見など

【県内参加者】

- ・ 南米のみでなくヨーロッパからの参加もあったらいいと思いました。
- ・ 海外だけでなく、県外にもウチナーンチュ子弟が多くいるのでそこからの参加枠を増やしてもいいと思う。
- ・ 県内のメンバーが今度は海外のメンバーに会いに行くプログラムを希望します！！来年はボランティアに参加したいと思っているので、声かけてもらえたらうれしいです！
- ・ グループで活動することが多く、グループ以外の人とはたくさんは話せなかった。部屋を複数人にするなどしたら話す機会が増えると思う。期間を長くできるなら、グループ変えをしてもいいと思う。
- ・ あんなに言葉が通じないとは思っていなかった。事前学習の時にでもみんなで挨拶とか勉強したい。
- ・ アルトゥーロさんの講話が面白かった。
- ・ 必要な荷物や日程が曖昧だったので、金武町に行くときに必要なバッグ、黒い長ズボンなどは特に事前に言って欲しい。
- ・ スケジュールも充実していて、とてもよかったですと思います。一週間は短かったのですが、またこのプログラムに参加したいです。

【海外参加者】

- ・ 記憶に残るプログラムを計画してくれてありがとうございました。
- ・ プログラムをもっと長くすればいいと思います。絆がより深まるからです。
- ・ 自分の言語を喋れる方や、ちゃんと間違えた時怒ってくれる方、私達の為に徹夜して作業をしてくださったスタッフやボランティアの方々一同があってこそ素晴らしい研修でした。沖縄に行く何週間も前から、フェイスブックなどで県内参加者の方々、スタッフの方々が色々な準備をしているのを目にして、まだ会った事もない自分達に、ここまでしてくれているなんて、凄い、と感じました。こうして、人を思う気持ちこそが大事なんだと感じ、自分も将来、こうしたプログラムで色々な国のうちなーんちゅ達を繋げたいと、思いました。
- ・ ホームステイがより長くなったらいいと思います。なぜなら、買い物ができるし、他の参加者と出かけられるからです。相部屋に泊まれば、絆が深くなると思います。

ウチナージュニアスタディー事業受け入れ実績

(1) これまでの海外参加者・引率者・青年リーダー内訳

★はウチナーンチュ大会開催年

126

○国別内訳 ()内は平成23年度までは引率者の人数、平成24年度からは青年リーダーの人数 (14) (9)

国名	年度	H13★	H14	H15	H16	H17	H18★	H19	H20	H21	H22	H23★	H24	H25	計
ボリビア		4 (1)	2	2 (1)	2	2	4 (1)	2 (1)	1	1	1 (1)	3	1	2	27 (5)
ブラジル		8 (2)	3 (1)	3 (1)	3 (1)	3 (1)	6 (1)	3 (1)	3 (1)	3 (1)	3 (1)	2 (1)	3	3	46 (12)
うちカンボグラデ		2 (1)	1	1 (1)	1	1	2	1	1	1	1		1	1 (1)	14 (3)
アルゼンチン		4 (1)	2 (1)	2	2 (1)	2 (1)	3	2	2 (1)	2	2	3 (1)	1	3	30 (6)
ペルー		4 (1)	2 (1)	2 (1)	2 (1)	2 (1)	3 (1)	2 (1)	1	2 (1)	2	3	1	2	28 (8)
ベネズエラ		1 (1)													1 (1)
メキシコ		2 (1)					1			1	1	1	1	1	8 (1)
キューバ			1 (1)	1 (1)	1 (1)		1 (1)		1 (1)	1 (1)	1 (1)				7 (7)
フランス		1 (1)													1 (1)
イギリス		1 (1)				1 (1)	2					1			5 (2)
ドイツ		1 (1)						1			1 (1)		1		4 (2)
アメリカ		17 (4)	6 (2)	6 (4)	5 (1)	5 (1)	10 (2)	5 (1)	4 (1)	6 (1)	7 (1)	7 (1)	5 (1)	2	85 (20)
うちハワイ			2	2 (1)	1		1		1	1			1		7 (1)
うちグアム		1		1 (1)											2 (1)
カナダ		4 (2)	1 (1)	1	1	1	2	1	1	1	2	1	1	1	18 (3)
フィリピン		3 (1)	2 (1)	2 (1)	1	1	1	1							11 (3)
シンガポール			1 (1)												1 (1)
マレーシア							1		1			1			3
ニューカレドニア									1	1	1	1		1	5
計		50 (17)	20 (9)	19 (9)	17 (5)	17 (5)	34 (6)	17 (4)	15 (4)	18 (4)	21 (5)	23 (3)	14 (1)	15 (1)	280 (73)

H26

295
(74)

○海外参加者 世代別内訳

※引率者、青年リーダーは含まない

15

国名	年度	H13★	H14	H15	H16	H17	H18★	H19	H20	H21	H22	H23★	H24	H25	計
1世					1	2	1		1			1		1	7
2世		26	5	6	6	3	14	5	2	5	8	8	5	2	95
3世		21	8	10	8	9	13	8	5	8	7	8	4	6	115
4世		3	7	3	2	3	5	4	7	5	5	6	5	6	61
5世							1				1				2
計		50	20	19	17	17	34	17	15	18	21	23	14	15	280

○海外参加者 男女別内訳

※引率者、青年リーダーは含まない

国名	年度	H13★	H14	H15	H16	H17	H18★	H19	H20	H21	H22	H23★	H24	H25	計
男子		30	9	5	7	6	15	6	4	6	9	10	6	6	119
女子		20	11	14	10	11	19	11	11	12	12	13	8	9	161
計		50	20	19	17	17	34	17	15	18	21	23	14	15	280

(2) これまでの県内・県外参加者内訳

★はウチナーンチュ大会開催年

○学生別内訳

※青年リーダーは含まない

国名	年度	H13★	H14	H15	H16	H17	H18★	H19	H20	H21	H22	H23★	H24	H25	計
小学生		9													9
中学生		24	13	7	5	4	11	4	4	5	6	7	2	3	95
高校生		17	11	18	15	15	22	13	11	13	15	17	12	12	191
計		50	24	25	20	19	33	17	15	18	21	24	14	15	295

○県内・県外参加者の男女別内訳

※青年リーダーは含まない

国名	年度	H13★	H14	H15	H16	H17	H18★	H19	H20	H21	H22	H23★	H24	H25	計
男子		15	6	4	4	5	7	3	3	4	3	4	2	3	63
女子		35	18	21	16	14	26	14	12	14	18	20	12	12	232
計		50	24	25	20	19	33	17	15	18	21	24	14	15	295

H26

311

※本報告書の内容を許可なく複写・複製・転載・翻訳をすることを禁じます。

平成25年度「ウチナージュニアスタディ」事業実施報告書

沖縄県

<受託者>

平成25年度ウチナージュニアスタディ事業にかかる共同企業体

トップツアー株式会社

特定非営利活動法人万国津梁人財ネットワーク

公益社団法人青年海外協力協会